

【54-1】平成30年度 大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	高度臨床医育成コース(内科学) (Training course for physicians with professional skills)
研究指導教員	田中 逸 松田 隆秀 峯下 昌道 明石 嘉浩 伊東 文生 柴垣 有吾 長谷川 泰弘 三浦 偉久男 川畑 仁人
研究・教育の概略	次の項目を満たす指導的臨床医(高度専門職業人)の育成をめざす ・高度の専門性が必要とされる医療業務に必要な診断・治療技術(専門医認定資格の取得に結びつく臨床技術を含む)と高い医療・生命倫理観に裏打ちされた専門性 ・医学のみならず、その他の生物学的研究に関する幅広い基礎知識 ・幅広い基礎知識に裏打ちされた医療情勢の変化に対応する能力 ・動物実験などの臨床研究遂行に必要な知識と経験や人獣共通感染症に関する幅広い知識等に裏打ちされた国際的に適用する臨床能力 ・サイエンスコミュニケーション、トランスレーショナルリサーチ、知的財産や情報の管理等に関する基礎的な知識等を有する また、下記を修了要件とする。 ① 学位申請論文: 1 編 (査読のある医学専門誌に掲載または掲載予定のもの) ② 内科専門医の取得 ③ 研究経過報告書(1～3 年の各年次末)
研究項目	内科領域における各種疾患の病態解明とその臨床応用 下記の内科領域における各種の臨床的研究 内分泌代謝疾患、糖尿病、生活習慣病、 血液疾患、造血器悪性腫瘍や癌の治療、造血幹細胞移植術、 消化器疾患、肝疾患、 脳血管障害、神経内科疾患:膠原病、免疫疾患 腎臓疾患、呼吸器疾患、 動脈硬化、循環器疾患 学会発表、博士論文作成(疾病の成因、新しい安全な診断・検査・治療法の開発と評価、臨床疫学などの患者に対する診療を通じた臨床研究をテーマとする) 各医学専門学会での専門医資格取得を視野に入れた診療・治療技術の習得
準備学習(予習・復習)	

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	プライマリケア病態論 I-A		必修/選択	必修	
担当教員	松田隆秀	担当教員連絡先	内線 3639、3640		
単位数	1単位(前期)	履修年次	1年		
テーマと目的	プライマリケアに必要な病態診断学を学ぶ				
講義計画	プライマリケアに必要な種々の症候や検査結果の意義を理解し、病態診断に至る過程について詳述する。				
達成目標	臨床統計学も含め鑑別診断を行ないながら病態診断が行える。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医・プライマリケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間				
成績評価法	課題に関する発表と質疑				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席⑥)	後期(回)	内 容	(出席⑥)
1	意識障害 ①		1	ショック ③	
2	意識障害 ②		2	電解質異常 ①	
3	意識障害 ③		3	電解質異常 ②	
4	不整脈 ①		4	電解質異常 ③	
5	不整脈 ②		5	胸痛 ①	
6	心不全 ①		6	胸痛 ②	
7	心不全 ②		7	胸痛 ③	
8	不明熱 ①		8	腹痛 ①	
9	不明熱 ②		9	腹痛 ②	
10	不明熱 ③		10	腹痛 ③	
11	頭痛 ①		11	動脈硬化 ①	
12	頭痛 ②		12	動脈硬化 ②	
13	頭痛 ③		13	動脈硬化 ③	
14	ショック ①		14	四肢のしびれ ①	
15	ショック ②		15	四肢のしびれ ②	

講義担当者承認 ㊥

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	プライマリケア病態論 I-B		必修/選択	必修	
担当教員	松田隆秀	担当教員連絡先	内線 3639、3640		
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	1年		
テーマと目的	プライマリケアに必要な病態診断学を学ぶ				
講義計画	プライマリケアに必要な種々の症候や検査結果の意義を理解し、病態診断に至る過程について詳述する。				
達成目標	臨床統計学も含め鑑別診断を行ないながら病態診断が行える。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医・プライマリケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間				
成績評価法	課題に関する発表と質疑				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席⑥)		後期(回)	内 容 (出席⑥)	
1	意識障害 ①		1	ショック ③	
2	意識障害 ②		2	電解質異常 ①	
3	意識障害 ③		3	電解質異常 ②	
4	不整脈 ①		4	電解質異常 ③	
5	不整脈 ②		5	胸痛 ①	
6	心不全 ①		6	胸痛 ②	
7	心不全 ②		7	胸痛 ③	
8	不明熱 ①		8	腹痛 ①	
9	不明熱 ②		9	腹痛 ②	
10	不明熱 ③		10	腹痛 ③	
11	頭痛 ①		11	動脈硬化 ①	
12	頭痛 ②		12	動脈硬化 ②	
13	頭痛 ③		13	動脈硬化 ③	
14	ショック ①		14	四肢のしびれ ①	
15	ショック ②		15	四肢のしびれ ②	

講義担当者承認 ㊥

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)	
講義題目	呼吸器内視鏡学 I		必修/選択	必修
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 81545	
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	1年	
テーマと目的	呼吸器内視鏡の実際を理解する			
講義計画	症例に基づいて, 気管支鏡および flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と実際を検討する			
達成目標	1. 気管支鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる 2. flexi-rigid type 胸腔鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表, 受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊥)		後期(回)	内 容 (出席㊥)
1	気管支鏡の歴史		1	
2	気管支鏡の適応と禁忌1		2	
3	気管支鏡の適応と禁忌2		3	
4	軟性気管支鏡の機器と準備1		4	
5	周辺機器1		5	
6	局所麻酔1		6	
7	気管支鏡の挿入と観察1		7	
8	気管支の解剖1		8	
9	気管支鏡所見一正常編1		9	
10	気管支鏡所見一異常編1		10	
11	気管支鏡所見一異常編2		11	
12	気管支鏡所見一異常編3		12	
13	胸腔鏡の歴史1		13	
14	flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と禁忌1		14	
15	flexi-rigid type 胸腔鏡の機器と準備1		15	

講義担当者承認 ㊥

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)	
講義題目	呼吸器内視鏡学Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 80484	
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	1年	
テーマと目的	呼吸器内視鏡の実際を理解する			
講義計画	症例に基づいて気管支鏡および flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と実際を検討する			
達成目標	1. 気管支鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる 2. flexi-rigid type 胸腔鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表, 受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	経気管支的肺生検1
2			2	経気管支的肺生検2
3			3	経気管支的肺生検3
4			4	EBUS—中枢気道への応用1
5			5	EBUS—中枢気道への応用2
6			6	EBUS—中枢気道への応用3
7			7	EBUS—中枢気道への応用4
8			8	EBUS—末梢病変への応用1
9			9	EBUS—末梢病変への応用2
10			10	EBUS—末梢病変への応用3
11			11	EBUS—末梢病変への応用4
12			12	flexi-rigid type 胸腔鏡の手技1
13			13	胸腔鏡所見1
14			14	胸腔鏡所見2
15			15	胸腔鏡の合併症と対処法1

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	循環器診断学 I-A		必修/選択	必修	
担当教員	明石嘉浩	担当教員連絡先	内線 3313		
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	1年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の診断戦略を把握する				
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して診断方法について理解し、管理方法を検討する				
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について診断方法を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた診断戦略を計画できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	循環器疾患と心電図 ①		1	Brugada 症候群の診断について	
2	循環器疾患と心電図 ②		2	WPW 症候群の診断について	
3	循環器疾患と心電図 ③		3	脚ブロックの診断について	
4	循環器疾患の胸部単純写真 ①		4	虚血性心疾患の診断法について	
5	循環器疾患の胸部単純写真 ②		5	弁膜症の診断方法について	
6	徐脈性不整脈の診断方法 ①		6	心臓超音波検査でどこまでわかるか	
7	徐脈性不整脈の診断方法 ②		7	心臓超音波検査でわからないこと	
8	頻脈性不整脈の診断方法 ①		8	M モード法でわかること	
9	頻脈性不整脈の診断方法 ②		9	B モード法でわかること	
10	心電図 P 波からなにがわかるか		10	ドップラー法でわかること	
11	心電図 QRS 波からなにがわかるか		11	経食道エコーでわかること	
12	心電図 T 波からなにがわかるか		12	心疾患と CT 検査	
13	心電図 ST 部分からなにがわかるか		13	大動脈疾患の診断方法	
14	心電図 U 波からなにがわかるか		14	肺循環障害の診断方法	
15	心電図 QT からなにがわかるか		15	心疾患と MRI 検査	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)		
講義題目	循環器診断学 I-B		必修/選択	必修	
担当教員	明石嘉浩	担当教員連絡先	内線 3313		
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	1年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の診断戦略を把握する				
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して診断方法について理解し、管理方法を検討する				
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について診断方法を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた診断戦略を計画できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	循環器疾患と心電図 ①		1	Brugada 症候群の診断について	
2	循環器疾患と心電図 ②		2	WPW 症候群の診断について	
3	循環器疾患と心電図 ③		3	脚ブロックの診断について	
4	循環器疾患の胸部単純写真 ①		4	虚血性心疾患の診断法について	
5	循環器疾患の胸部単純写真 ②		5	弁膜症の診断方法について	
6	徐脈性不整脈の診断方法 ①		6	心臓超音波検査でどこまでわかるか	
7	徐脈性不整脈の診断方法 ②		7	心臓超音波検査でわからないこと	
8	頻脈性不整脈の診断方法 ①		8	M モード法でわかること	
9	頻脈性不整脈の診断方法 ②		9	B モード法でわかること	
10	心電図 P 波からなにがわかるか		10	ドップラー法でわかること	
11	心電図 QRS 波からなにがわかるか		11	経食道エコーでわかること	
12	心電図 T 波からなにがわかるか		12	心疾患と CT 検査	
13	心電図 ST 部分からなにがわかるか		13	大動脈疾患の診断方法	
14	心電図 U 波からなにがわかるか		14	肺循環障害の診断方法	
15	心電図 QT からなにがわかるか		15	心疾患と MRI 検査	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)	
講義題目	消化器・肝臓病総論 I-A		必修/選択	必修
担当教員	伊東文生	担当教員連絡先	内線 3470	
単位数	1 単位(前期)	履修年次	1 年	
テーマと目的	新規症例について検討し基本的な消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解する。			
講義計画	新規症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解し、管理方法および治療方針を検討する。			
達成目標	1.基本的な消化器・肝臓疾患について病態を理論的に考案し説明できる。 2.基本的な消化器・肝臓疾患の病態に基づいた治療・管理を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)	
1	1. 消化管疾患の検査の進め方 ①	1	〃 ②	
2	〃 ②	2	〃 ③	
3	〃 ③	3	〃 ④	
4	〃 ④	4	5. 消化管の症候 ①	
5	〃 ⑤	5	〃 ②	
6	2. 消化管運動 ①	6	〃 ③	
7	〃 ②	7	〃 ④	
8	〃 ③	8	6. 肝機能検査の解釈 ①	
9	〃 ④	9	〃 ②	
10	3. 消化・吸収 ①	10	〃 ③	
11	〃 ②	11	〃 ④	
12	〃 ③	12	〃 ⑤	
13	〃 ④	13	〃 ⑥	
14	〃 ⑤	14	〃 ⑦	
15	4. 消化管ホルモン ①	15	〃 ⑧	

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)	
講義題目	消化器・肝臓病総論 I-B		必修/選択	必修
担当教員	伊東文生	担当教員連絡先	内線 3470	
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	新規症例について検討し基本的な消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解する。			
講義計画	新規症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解し、管理方法および治療方針を検討する。			
達成目標	1.基本的な消化器・肝臓疾患について病態を理論的に考案し説明できる。 2.基本的な消化器・肝臓疾患の病態に基づいた治療・管理を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)	
1	1. 消化管疾患の検査の進め方 ①	1	〃 ②	
2	〃 ②	2	〃 ③	
3	〃 ③	3	〃 ④	
4	〃 ④	4	5. 消化管の症候 ①	
5	〃 ⑤	5	〃 ②	
6	2. 消化管運動 ①	6	〃 ③	
7	〃 ②	7	〃 ④	
8	〃 ③	8	6. 肝機能検査の解釈 ①	
9	〃 ④	9	〃 ②	
10	3. 消化・吸収 ①	10	〃 ③	
11	〃 ②	11	〃 ④	
12	〃 ③	12	〃 ⑤	
13	〃 ④	13	〃 ⑥	
14	〃 ⑤	14	〃 ⑦	
15	4. 消化管ホルモン ①	15	〃 ⑧	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)	
講義題目	腎臓病態学Ⅰ		必修/選択	必修
担当教員	柴垣 有吾	担当教員連絡先	PHS 80047	
単位数	1単位(前期Ⅰ)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な腎疾患の病態を理解する			
講義計画	種々の基本的な腎疾患症例を通して病態を理解し、管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な腎疾患について病態を論理的に説明できる 2. 基本的な腎疾患の病態に基づいた管理を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料をよく読んでおくこと。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(1)	1		
2	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(2)	2		
3	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(3)	3		
4	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(4)	4		
5	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(5)	5		
6	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(6)	6		
7	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(7)	7		
8	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(8)	8		
9	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(9)	9		
10	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(10)	10		
11	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(11)	11		
12	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(12)	12		
13	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(13)	13		
14	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(14)	14		
15	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(15)	15		

講義担当者承認 ⑧

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)	
講義題目	腎臓病態学Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	柴垣 有吾	担当教員連絡先	PHS 80047	
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	症例に基づいて特殊な腎疾患の病態を理解する			
講義計画	種々の特殊な腎疾患症例を通して病態を理解し、管理方法を検討する			
達成目標	1. 特殊な腎疾患について病態を論理的に説明できる 2. 特殊な腎疾患の病態に基づいた管理を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料をよく読んでおくこと。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容		後期(回)	内 容 (出席@)
1			1	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(1)
2			2	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(2)
3			3	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(3)
4			4	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(4)
5			5	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(5)
6			6	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(6)
7			7	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(7)
8			8	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(8)
9			9	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(9)
10			10	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(10)
11			11	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(11)
12			12	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(12)
13			13	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(13)
14			14	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(14)
15			15	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(15)

講義担当者承認 ㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)	
講義題目	臨床代謝学Ⅱ-A		必修/選択	必修
担当教員	田中 逸	担当教員連絡先	内線 3149	
単位数	1単位(前期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	糖尿病の最新の知識と臨床的アプローチについて学ぶ。			
講義計画	糖尿病症例を通して病態を理解し、診断・治療法を検討する。			
達成目標	1.糖尿病について病態を論理的に説明できる。 2.糖尿病について病態に基づいた診断・治療計画を作成できる。			
教科書・参考書	別途指示する			
準備学習(予習・復習・時間)	・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 1 時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	糖代謝総論		1	慢性合併症各論:細小血管障害
2	脂質代謝・リポ蛋白代謝総論		2	慢性合併症各論:大血管障害
3	糖尿病の概念		3	低血糖総論
4	糖尿病における糖脂質代謝		4	糖尿病の治療:食事療法
5	糖尿病の診断・病型分類		5	糖尿病の治療:運動療法
6	二次性糖尿病・遺伝子関連		6	治療:薬物療法・経口薬(1)
7	糖尿病と妊娠		7	治療:薬物療法・経口薬(2)
8	インスリン分泌能・インスリン感受性		8	治療:薬物療法:インスリン療法(1)
9	糖代謝関連検査		9	治療:薬物療法:インスリン療法(2)
10	1型糖尿病総論(1):病態生理		10	治療:薬物療法:インスリン療法(3)
11	1型糖尿病総論(2):検査		11	糖尿病関連の最新のトピックス
12	2型糖尿病総論(1):病態生理		12	脂質異常症総論:病態生理
13	2型糖尿病総論(2):検査		13	脂質異常症各論(1):診断・検査
14	糖尿病各論(1):急性合併症		14	脂質異常症各論(2):治療
15	糖尿病各論(2):慢性合併症総論		15	脂質異常症各論(3):治療

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)	
講義題目	臨床代謝学Ⅱ-B		必修/選択	必修
担当教員	田中 逸	担当教員連絡先	内線 3149	
単位数	1単位(後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	糖尿病の最新の知識と臨床的アプローチについて学ぶ。			
講義計画	糖尿病症例を通して病態を理解し、診断・治療法を検討する。			
達成目標	1.糖尿病について病態を論理的に説明できる。 2.糖尿病について病態に基づいた診断・治療計画を作成できる。			
教科書・参考書	別途指示する			
準備学習(予習・復習・時間)	・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 1 時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	糖代謝総論		1	慢性合併症各論:細小血管障害
2	脂質代謝・リポ蛋白代謝総論		2	慢性合併症各論:大血管障害
3	糖尿病の概念		3	低血糖総論
4	糖尿病における糖脂質代謝		4	糖尿病の治療:食事療法
5	糖尿病の診断・病型分類		5	糖尿病の治療:運動療法
6	二次性糖尿病・遺伝子関連		6	治療:薬物療法・経口薬(1)
7	糖尿病と妊娠		7	治療:薬物療法・経口薬(2)
8	インスリン分泌能・インスリン感受性		8	治療:薬物療法:インスリン療法(1)
9	糖代謝関連検査		9	治療:薬物療法:インスリン療法(2)
10	1型糖尿病総論(1):病態生理		10	治療:薬物療法:インスリン療法(3)
11	1型糖尿病総論(2):検査		11	糖尿病関連の最新のトピックス
12	2型糖尿病総論(1):病態生理		12	脂質異常症総論:病態生理
13	2型糖尿病総論(2):検査		13	脂質異常症各論(1):診断・検査
14	糖尿病各論(1):急性合併症		14	脂質異常症各論(2):治療
15	糖尿病各論(2):慢性合併症総論		15	脂質異常症各論(3):治療

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)	
講義題目	神経症候学特論 - A		必修/選択	必修
担当教員	長谷川泰弘	担当教員連絡先	内線 3150	
単位数	1単位(前期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	神経疾患の局所診断における神経症候学的アプローチについて学ぶ 入院症例をもとに講義するので内容は適宜入れ替えることがある			
講義計画	局所診断学の意義を神経放射線学的診断と対比させて理解する			
達成目標	1.神経症候学的観点から各疾患の局所診断ができる 2.神経放射線学的診断と神経症候学とを対比して病態を説明できる			
教科書・参考書	別途指示する			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	前頭葉症状のとりえ方		1	症候学症例検討(1)
2	頭頂葉症状のとりえ方		2	症候学症例検討(2)
3	側頭葉症状のとりえ方		3	症候学症例検討(3)
4	後頭葉症状のとりえ方		4	症候学症例検討(4)
5	錐体路徴候		5	症候学症例検討(5)
6	小脳失調		6	症候学症例検討(6)
7	筋委縮の分布		7	症候学症例検討(7)
8	感覚障害のとりえ方		8	症候学症例検討(8)
9	認知機能のとりえ方		9	症候学症例検討(9)
10	離断症候群		10	症候学症例検討(10)
11	失認		11	症候学症例検討(11)
12	失行		12	症候学症例検討(12)
13	失語		13	症候学症例検討(13)
14	前期のまとめ(1)		14	後期のまとめ(1)
15	前期のまとめ(2)		15	後期のまとめ(2)

講義担当者承認 ◎印

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)	
講義題目	神経症候学特論 - B		必修/選択	必修
担当教員	長谷川泰弘	担当教員連絡先	内線 3150	
単位数	1単位(後期)	履修年次	2年	
テーマと目的	神経疾患の局所診断における神経症候学的アプローチについて学ぶ 入院症例をもとに講義するので内容は適宜入れ替えることがある			
講義計画	局所診断学の意義を神経放射線学的診断と対比させて理解する			
達成目標	1.神経症候学的観点から各疾患の局所診断ができる 2.神経放射線学的診断と神経症候学とを対比して病態を説明できる			
教科書・参考書	別途指示する			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	前頭葉症状のとりえ方		1	症候学症例検討(1)
2	頭頂葉症状のとりえ方		2	症候学症例検討(2)
3	側頭葉症状のとりえ方		3	症候学症例検討(3)
4	後頭葉症状のとりえ方		4	症候学症例検討(4)
5	錐体路徴候		5	症候学症例検討(5)
6	小脳失調		6	症候学症例検討(6)
7	筋委縮の分布		7	症候学症例検討(7)
8	感覚障害のとりえ方		8	症候学症例検討(8)
9	認知機能のとりえ方		9	症候学症例検討(9)
10	離断症候群		10	症候学症例検討(10)
11	失認		11	症候学症例検討(11)
12	失行		12	症候学症例検討(12)
13	失語		13	症候学症例検討(13)
14	前期のまとめ(1)		14	後期のまとめ(1)
15	前期のまとめ(2)		15	後期のまとめ(2)

講義担当者承認 ◎印

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(15)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)	
講義題目	リウマチ性疾患 Up To Date-Ⅱ A		必修/選択	必修
担当教員	川畑 仁人	担当教員連絡先	内線 4119	
単位数	1 単位(前期)	履修年次	2年	
テーマと目的	日進月歩のリウマチ膠原病疾患に関する新知見を学ぶ			
講義計画	抄読会形式で、最新論文の成績を吟味、評価し、診療への役立て方を学ぶ。			
達成目標	研究の背景、仮説、方法論、結果のまとめ方、結果の評価方法を理解する。 得られた知見を臨床に応用する方法を理解する。			
教科書・参考書	最新論文			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	その時点の最新論文をとりあげるため、 内容は一週間前に決まる。		1	その時点の最新論文をとりあげるため、 内容は一週間前に決まる。
2	〃		2	〃
3	〃		3	〃
4	〃		4	〃
5	〃		5	〃
6	〃		6	〃
7	〃		7	〃
8	〃		8	〃
9	〃		9	〃
10	〃		10	〃
11	〃		11	〃
12	〃		12	〃
13	〃		13	〃
14	〃		14	〃
15	評価日		15	評価日

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(16)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)	
講義題目	リウマチ性疾患 Up To Date-Ⅱ B		必修/選択	必修
担当教員	川畑 仁人	担当教員連絡先	内線 4119	
単位数	1 単位(後期)	履修年次	2年	
テーマと目的	日進月歩のリウマチ膠原病疾患に関する新知見を学ぶ			
講義計画	抄読会形式で、最新論文の成績を吟味、評価し、診療への役立て方を学ぶ。			
達成目標	研究の背景、仮説、方法論、結果のまとめ方、結果の評価方法を理解する。 得られた知見を臨床に応用する方法を理解する。			
教科書・参考書	最新論文			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	その時点の最新論文をとりあげるため、 内容は一週間前に決まる。		1	その時点の最新論文をとりあげるため、 内容は一週間前に決まる。
2	〃		2	〃
3	〃		3	〃
4	〃		4	〃
5	〃		5	〃
6	〃		6	〃
7	〃		7	〃
8	〃		8	〃
9	〃		9	〃
10	〃		10	〃
11	〃		11	〃
12	〃		12	〃
13	〃		13	〃
14	〃		14	〃
15	評価日		15	評価日

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(17)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)	
講義題目	血液細胞遺伝学 A		必修/選択	必修
担当教員	三浦偉久男	担当教員連絡先	内線 3372	
単位数	1単位(前期)	履修年次	2 年	
テーマと目的	血液腫瘍における染色体異常について診断および治療との関連を学ぶ。			
講義計画	白血病、リンパ腫、骨髄異形成症候群および多発性骨髄腫にみられる染色体異常をがん遺伝子と関連づけて詳述する。			
達成目標	1.血液腫瘍にみられる染色体異常を述べることができる。 2.血液腫瘍の診断および治療における染色体異常と遺伝子の関連を説明できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	参考資料を読み、配布資料の内容を確認すること。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊤)		後期(回)	内 容 (出席㊤)
1	染色体総論(1)構造		1	染色体とがん遺伝子(1)
2	同 (2)細胞周期と染色体		2	同 (2)
3	同 (3)G-band 法		3	AML の染色体異常 (1)
4	同 (4)FISH 法		4	同 (2)
5	同 (5)SKY と M-FISH		5	同 (3)
6	染色体異常(1)正常変異		6	MDS の染色体異常 (1)
7	同 (2)数の異常		7	同 (2)
8	同 (3)構造異常		8	ALL の染色体異常
9	同 (4)微細欠失症候群		9	Ph 染色体
10	同 (5)性染色体異常		10	悪性リンパ腫の染色体異常(1)
11	同 (6)リプロダクションの異常		11	同 (2)
12	同 (7)染色体不安定性		12	同 (3)
13	白血病の核間期 FISH 分析		13	同 (4)
14	構成的染色体異常		14	多発性骨髄腫の染色体異常(1)
15	Y 染色体の喪失		15	同 (2)

講義担当者承認 ⑨

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(18)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)	
講義題目	血液細胞遺伝学 B		必修/選択	必修
担当教員	三浦偉久男	担当教員連絡先	内線 3372	
単位数	1単位(後期)	履修年次	2 年	
テーマと目的	血液腫瘍における染色体異常について診断および治療との関連を学ぶ。			
講義計画	白血病、リンパ腫、骨髄異形成症候群および多発性骨髄腫にみられる染色体異常をがん遺伝子と関連づけて詳述する。			
達成目標	1.血液腫瘍にみられる染色体異常を述べることができる。 2.血液腫瘍の診断および治療における染色体異常と遺伝子の関連を説明できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	参考資料を読み、配布資料の内容を確認すること。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	染色体総論(1)構造		1	染色体とがん遺伝子(1)
2	同 (2)細胞周期と染色体		2	同 (2)
3	同 (3)G-band 法		3	AML の染色体異常 (1)
4	同 (4)FISH 法		4	同 (2)
5	同 (5)SKY と M-FISH		5	同 (3)
6	染色体異常(1)正常変異		6	MDS の染色体異常 (1)
7	同 (2)数の異常		7	同 (2)
8	同 (3)構造異常		8	ALL の染色体異常
9	同 (4)微細欠失症候群		9	Ph 染色体
10	同 (5)性染色体異常		10	悪性リンパ腫の染色体異常(1)
11	同 (6)リプロダクションの異常		11	同 (2)
12	同 (7)染色体不安定性		12	同 (3)
13	白血病の核間期 FISH 分析		13	同 (4)
14	構成的染色体異常		14	多発性骨髄腫の染色体異常(1)
15	Y 染色体の喪失		15	同 (2)

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(19)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)	
講義題目	プライマリケア症候論 実習 I-B		必修/選択	必修
担当教員	松田隆秀	担当教員連絡先	内線 3639	
単位数	1 単位(後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	プライマリケアにおいて頻度の高い症候とその捉え方を習得する。			
講義計画	種々の症候について、その出現機序、病態について詳述する。			
達成目標	症候を正しく捉え、病態を考察することができる。			
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医・プライマリケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)			
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間			
成績評価法	課題に関する発表と質疑			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)
1			1	体重減少 ①
2			2	体重減少 ②
3			3	腰痛 ①
4			4	腰痛 ②
5			5	全身倦怠感 ①
6			6	全身倦怠感 ②
7			7	食欲不振 ①
8			8	食欲不振 ②
9			9	呼吸困難 ①
10			10	呼吸困難 ②
11			11	呼吸困難 ③
12			12	咳・痰 ①
13			13	咳・痰 ②
14			14	歩行障害 ①
15			15	歩行障害 ②

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(20)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)	
講義題目	呼吸器内視鏡実習Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	井上 健男	担当教員連絡先	内線 81307	
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	気管支鏡の実技を習得する			
講義計画	気管支鏡の手技を実施する。			
達成目標	気管支鏡を用いて内視鏡的観察ができる。 経気管支肺生検ができる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間			
成績評価法	出席と実習態度, および手技の習熟度, 問題点の理解度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)
1			1	気管支鏡の挿入および観察手技1
2			2	気管支鏡の挿入および観察手技2
3			3	気管支命名法1
4			4	気管支命名法2
5			5	気管支鏡所見1
6			6	気管支鏡所見2
7			7	気管支鏡所見3
8			8	気管支鏡所見4
9			9	経気管支肺生検1
10			10	経気管支肺生検2
11			11	経気管支肺生検3
12			12	ナビゲーション1
13			13	ナビゲーション2
14			14	EBUS－GS法1
15			15	EBUS－GS法2

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(21)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)	
講義題目	消化器内視鏡学実習Ⅱ-A		必修/選択	選択
担当教員	安田 宏	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	1 単位(前期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	消化器内視鏡学の基本的な技術を習得する。			
講義計画	上部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本技術を理論的に理解し、習得させる。			
達成目標	1.消化器内視鏡の原理を理解する。 2.上部消化管および下部消化管内視鏡の基本手技を習得する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での受講態度および技術習得による総合評価とする。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)	
1	内視鏡原理(Ⅰ)	1		
2	〃 (Ⅱ)	2		
3	前処置(Ⅰ)	3		
4	〃 (Ⅱ)	4		
5	上部消化管内視鏡挿入(Ⅰ)	5		
6	〃 (Ⅱ)	6		
7	〃 (Ⅲ)	7		
8	下部消化管内視鏡挿入(Ⅰ)	8		
9	〃 (Ⅱ)	9		
10	〃 (Ⅲ)	10		
11	内視鏡画像特論(Ⅰ)	11		
12	〃 (Ⅱ)	12		
13	〃 (Ⅲ)	13		
14	抄読会	14		
15	〃	15		

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(22)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)	
講義題目	救急医学総論 I-A		必修/選択	必修
担当教員	平 泰彦	担当教員連絡先	内線 3931	
単位数	2 単位(前期)	履修年次	1・2 年	
テーマと目的	救急医療と救急医学について、その本質を理解する			
講義計画	重症度、緊急度の高い急性病態について理解する 急性病態に対する初期対応の意義を理解する			
達成目標	総ての救急患者の急性病態の重症度と緊急度を判断し、トリアージできる 軽症から重症まで急性病態に応じた初期対応の理解とそれを実施できる			
教科書・参考書	救急診療指針（へるす出版）、標準救急医学(医学書院) Emergency Medicine (Mc Graw Hill)			
準備学習(予習・復習・時間)	救急医学は、病態を目の前にして、緊急度 と 重症度 とを判断する必要がある。主な、頻繁に遭遇する救急病態における、夫々の緊急度と重症度を判断できるように学習する。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での討論において総合的に評価する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	緊急度		1	医療倫理 1
2	バイタルサイン		2	医療倫理 2
3	トリアージ		3	医療倫理 3
4	重症度		4	集中治療総論 1
5	リスク層別化		5	集中治療総論 2
6	高エネルギー損傷		6	集中治療総論 3
7	ABCDE アプローチ		7	呼吸 総論
8	メディカルコントロール		8	呼吸 基礎 呼吸生理
9	プレホスピタルケア		9	呼吸不全
10	口頭指示		10	呼吸 気道確保
11	JPTEC		11	呼吸 酸素療法
12	ウツタイン様式		12	呼吸 人工呼吸
13	外傷データバンク		13	呼吸 急性期リハビリ
14	救急救命士		14	呼吸 呼吸不全、ARDS
15	ドクターヘリ		15	呼吸 処置、対応

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(23)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)	
講義題目	救急医学総論 I-B		必修/選択	必修
担当教員	平 泰彦	担当教員連絡先	内線 3931	
単位数	2 単位(後期)	履修年次	1・2 年	
テーマと目的	救急医療と救急医学について、その本質を理解する			
講義計画	重症度、緊急度の高い急性病態について理解する 急性病態に対する初期対応の意義を理解する			
達成目標	総ての救急患者の急性病態の重症度と緊急度を判断し、トリアージできる 軽症から重症まで急性病態に応じた初期対応の理解とそれを実施できる			
教科書・参考書	救急診療指針（へるす出版）、標準救急医学(医学書院) Emergency Medicine (Mc Graw Hill)			
準備学習(予習・復習・時間)	救急医学は、病態を目の前にして、緊急度 と 重症度 とを判断する必要がある。主な、頻繁に遭遇する救急病態における、夫々の緊急度と重症度を判断できるように学習する。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での討論において総合的に評価する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	緊急度		1	医療倫理 1
2	バイタルサイン		2	医療倫理 2
3	トリアージ		3	医療倫理 3
4	重症度		4	集中治療総論 1
5	リスク層別化		5	集中治療総論 2
6	高エネルギー損傷		6	集中治療総論 3
7	ABCDE アプローチ		7	呼吸 総論
8	メディカルコントロール		8	呼吸 基礎 呼吸生理
9	プレホスピタルケア		9	呼吸不全
10	口頭指示		10	呼吸 気道確保
11	JPTEC		11	呼吸 酸素療法
12	ウツタイン様式		12	呼吸 人工呼吸
13	外傷データバンク		13	呼吸 急性期リハビリ
14	救急救命士		14	呼吸 呼吸不全、ARDS
15	ドクターヘリ		15	呼吸 処置、対応

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(24)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)	
講義題目	地域医療学 実習		必修/選択	選択
担当教員	田中 逸	担当教員連絡先	内線	
単位数	4 単位(3 ヶ月)	履修年次	1・2 学年	
テーマと目的	地域医療の実情と問題点を把握した上でその解決法を学ぶ			
講義計画	地域医療に関する背景、現状、問題点を中心に解説する			
達成目標	地域医療における諸問題点を理解し、内科医に求められている役割を理解、実践できる			
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医・プライマリケア医入門」プリメド社、「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)			
準備学習(予習・復習・時間)	上記テキストをあらかじめ通読、予習しておくこと			
成績評価法	課題に関するは発表、質疑応答で評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)
1～10	地域医療学実習Ⅰ(1)		1～10	地域医療学実習Ⅰ(1)
11～20	地域医療学実習Ⅰ(2)		11～20	地域医療学実習Ⅰ(2)
21～30	地域医療学実習Ⅰ(3)		21～30	地域医療学実習Ⅰ(3)
31～40	地域医療学実習Ⅱ(1)		31～40	地域医療学実習Ⅱ(1)
41～50	地域医療学実習Ⅱ(2)		41～50	地域医療学実習Ⅱ(2)
51～60	地域医療学実習Ⅱ(3)		51～60	地域医療学実習Ⅱ(3)
61～70	地域医療学実習Ⅲ(1)		61～70	地域医療学実習Ⅲ(1)
71～80	地域医療学実習Ⅲ(2)		71～80	地域医療学実習Ⅲ(2)
81～90	地域医療学実習Ⅲ(3)		81～90	地域医療学実習Ⅲ(3)
91～100	地域医療学実習Ⅳ(1)		91～100	地域医療学実習Ⅳ(1)
101～110	地域医療学実習Ⅳ(2)		101～110	地域医療学実習Ⅳ(2)
111～120	地域医療学実習Ⅳ(3)		111～120	地域医療学実習Ⅳ(3)

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(25)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(内科学)	
講義題目	内科学特論		必修/選択	必修
担当教員	長谷川泰弘	担当教員連絡先	内線 3150	
単位数	1単位(通年、月1回2時間)	履修年次	2年	
テーマと目的	内科疾患の最新の知識と臨床的アプローチについて学ぶ			
講義計画	各臓器別内科から提示された内科疾患の最新の知識を整理し、内科的診断治療のアプローチについて理解する			
達成目標	1. 個々の内科疾患の概念、病態を説明できる 2. 疾患概念の変化をもたらした研究成果の概要を説明できる			
教科書・参考書	別途指示する			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	臓器別内科の最新知識(1)		1	臓器別内科の最新知識(16)
2	臓器別内科の最新知識(2)		2	臓器別内科の最新知識(17)
3	臓器別内科の最新知識(3)		3	臓器別内科の最新知識(18)
4	臓器別内科の最新知識(4)		4	臓器別内科の最新知識(19)
5	臓器別内科の最新知識(5)		5	臓器別内科の最新知識(20)
6	臓器別内科の最新知識(6)		6	臓器別内科の最新知識(21)
7	臓器別内科の最新知識(7)		7	臓器別内科の最新知識(22)
8	臓器別内科の最新知識(8)		8	臓器別内科の最新知識(23)
9	臓器別内科の最新知識(9)		9	臓器別内科の最新知識(24)
10	臓器別内科の最新知識(10)		10	臓器別内科の最新知識(25)
11	臓器別内科の最新知識(11)		11	臓器別内科の最新知識(26)
12	臓器別内科の最新知識(12)		12	臓器別内科の最新知識(27)
13	臓器別内科の最新知識(13)		13	臓器別内科の最新知識(28)
14	臓器別内科の最新知識(14)		14	臓器別内科の最新知識(29)
15	臓器別内科の最新知識(15)		15	臓器別内科の最新知識(30)

講義担当者承認 ㊟

【54-2】平成30年度 大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	高度臨床医育成コース(小児科学) (Training course for physicians with professional skills)
研究指導教員	山 本 仁
研究・教育の概略	小児科学とは、小児の保健、健康を研究することを基礎として、さらに種々の疾病を有する患児を診断し、治療することを研究する臨床科学である。したがって、小児科学を研究するために小児の正常の発育、発達、栄養について十分な知識をもっていなければならないことは、当然であるが、成人を含めた病態生理学にも精通していることが必要である。 臨床的には、generality として 小児科専門医を取得し、臓器別の subspeciality の道も目指す。 研究としては、「オリジナリティーの高い研究(臨床研究、動物実験による研究)を遂行し、その成果を論文にまとめあげる」という課程を通じて「将来自立して研究ができて、後輩の研究指導ができる」を目標とする。
研究項目	1. 各種予防接種と細胞性免疫、百日咳流行株の遺伝子変異について 2. 胎盤循環から肺循環への適応の諸問題:①心機能から見た適応の研究 3. 〃 :②肺機能から見た適応の研究 4. 母乳栄養推進と母子愛情形成に及ぼす阻害因子の検討と対策 5. 腎疾患(CKD)における進展・増悪因子の検討 6. 小児喘息と環境、食物アレルギーの抗原と発症機序 7. 脳における低酸素性虚血性病変の診断と治療(新生児および動物実験も含めて) 8. 小児の成長とホルモンとの関係:成長ホルモンと性分化異常症 9. 小児出血性疾患および血栓性疾患における凝固因子・線溶因子の検討:トロンビン・ジェネレーションの臨床的意義 10. 小児神経疾患に及ぼす酸化ストレスの研究
準備学習(予習・復習)	小児科学は非常に幅の広い学問分野であり、対象は新生児から学童期に及んでいる。精神、運動面で発達変化していくことが大きな特徴である。小児科を学ぶ準備段階として正常な小児の新生児から学童期に渡る発育、発達を学習しておく事が重要である。

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)	
講義題目	新生児学 I		必修/選択	必修
担当教員	北東 功	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1 単位(前期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	正常新生児の適応過程の理解			
講義計画	正常新生児症例を通して出生後の適応生理を理解し、実際に個々の管理法を体得する。 母親の泌乳過程と心理を理解し、よりよいコミュニケーション法を体得する。			
達成目標	1. 正常新生児の適応過程を説明できる。 2. 新生児低血糖、新生児黄疸、水分電解質、酸-塩基平衡管理法を計画できる。 3. 母乳育児支援のしくみを説明できる。			
教科書・参考書	母乳育児成功のための10カ条のエビデンス			
準備学習(予習・復習・時間)	正常新生児の基礎知識を学んでおく。 1 時間			
成績評価法	境界領域の症例シミュレーションに基づく討議内容の評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)			
1	新生児の呼吸適応・経膈分娩での呼吸適応			
2	帝王切開での呼吸適応・新生児一過性多呼吸			
3	新生児の循環適応・動脈管の意義・卵円孔の意義			
4	胎盤循環から肺循環へ・新生児特発性肺高血圧症			
5	新生児体温調節・分娩室での体温低下			
6	出生直後の skin to skin			
7	新生児の血液・貧血と多血			
8	母体出血による影響			
9	新生児のエネルギー代謝・新生児低血糖のしくみ・新生児低血糖への対処			
10	新生児黄疸・光線療法の適応			
11	腸肝循環の理解			
12	新生児飢餓と吸啜意欲・体重減少と脱水の鑑別			
13	NRP にもとづく新生児蘇生法・新生児仮死の病態理解			
14	母乳栄養・完全母乳栄養と母子同室			
15	乳業メーカー関与が母乳育児阻害因子となる・母乳分泌遅延に対する対処法			

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)	
講義題目	新生児学Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	北東 功	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1 単位(後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	新生児呼吸障害の病態の理解			
講義計画	種々の新生児呼吸障害の成因・病態・経過・診断・管理法について			
達成目標	1. 新生児期に特有な呼吸障害について病態を踏まえて説明できる。 2. 新生児呼吸管理法を自ら行うことができる。			
教科書・参考書	Assisted Ventilation of the Neonate			
準備学習(予習・復習・時間)	新生児特有の呼吸状態を学んでおく。 1 時間			
成績評価法	筆記・口頭試験			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	胎児期の呼吸器の発育・肺成熟度評価
2			2	RDS・人工サーファクタント
3			3	TTN・MAS
4			4	空気遮断・無呼吸発作
5			5	慢性肺疾患・肺の形成異常
6			6	先天性食道閉鎖・横隔膜ヘルニア
7			7	Dry lung syndrome・呼吸機能評価
8			8	新生児期管内挿管
9			9	IMV・HFO・様々な換気法(PTV 等)
10			10	Lung protective policy・人工換気と循環
11			11	気道損傷の予防・気道吸引法・肺理学療法
12			12	体位性ドレナージ・気管切開
13			13	NO 吸入療法・ECMO
14			14	呼吸器疾患と薬物療法
15			15	テオフィリン・ステロイド吸入療法

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)		
講義題目	一般小児科学 I		必修/選択	必修	
担当教員	山本 仁	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	小児の栄養、小児保健を理解できる。				
講義計画	小児の栄養、栄養所要量、小児保健全体について学習する。				
達成目標	1. 小児の栄養、栄養所要量について理解する。 2. 小児保健全体、学校保健について理解する。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期それぞれの時期での必要な栄養について学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	小児栄養の意義		1		
2	栄養素の代謝:糖質代謝		2		
3	栄養素の代謝:脂質代謝		3		
4	栄養素の代謝:蛋白質代謝		4		
5	小児の栄養所要量:水分		5		
6	小児の栄養所要量:エネルギー		6		
7	小児の栄養所要量:蛋白質		7		
8	小児の栄養所要量:脂質・糖質		8		
9	ビタミン欠乏症・過剰症		9		
10	新生児マススクリーニング		10		
11	乳幼児健康調査・健康診断		11		
12	学校保健		12		
13	心臓検診		13		
14	腎臓検診		14		
15	小児保健統計		15		

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)	
講義題目	一般小児科学Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	右田王介	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	小児の成長・発達・成熟および発育の概念と定義を理解する。			
講義計画	小児期特有の発達、成長、発育を理解した上で、病的な状態を学習する。			
達成目標	1. 基本的な小児の発育に関する因子を理解できる。 2. 基本的な小児の身体構成と年齢的变化を理解、発表できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	正常な小児の成長、発育について学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	発育期の分類
2			2	発育の一般原則
3			3	遺伝因子・環境因子
4			4	胎児の発育
5			5	成長:体重・身長・頭囲
6			6	歯の成長
7			7	骨年齢
8			8	体脂肪
9			9	体水分量
10			10	骨格筋
11			11	成長の評価:身体計測
12			12	発育指数
13			13	成長曲線
14			14	成長速度曲線
15			15	青年期の身長・体重の変化

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)	
講義題目	小児血液学 I		必修/選択	必修
担当教員	瀧 正志	担当教員連絡先	内線:西部病院 3209	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	症例に基づき小児の血液疾患の病態を理解する			
講義計画	種々の小児の血液疾患の症例を通して病態を理解し、治療方針および管理方法を検討する。			
達成目標	1. 基本的な小児の血液疾患について論理的に診断、鑑別できる。 2. 基本的な小児の血液疾患について病態に基づいた治療方針が立てられる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期の血液疾患の特徴を学習準備する。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	造血のしくみ-1		1	止血のしくみ-1
2	造血のしくみ-2		2	止血のしくみ-2
3	造血のしくみ-3		3	止血のしくみ-3
4	造血のしくみ-4		4	止血のしくみ-4
5	造血のしくみ-5		5	止血のしくみ-5
6	小児の赤血球系疾患-1		6	小児の出血性疾患-1
7	小児の赤血球系疾患-2		7	小児の出血性疾患-2
8	小児の赤血球系疾患-3		8	小児の出血性疾患-3
9	小児の赤血球系疾患-4		9	小児の出血性疾患-4
10	小児の赤血球系疾患-5		10	小児の出血性疾患-5
11	小児の赤血球系疾患-6		11	小児の出血性疾患-6
12	小児の赤血球系疾患-7		12	小児の血栓性疾患-1
13	小児の赤血球系疾患-8		13	小児の血栓性疾患-2
14	小児の赤血球系疾患-9		14	小児の血栓性疾患-3
15	小児の赤血球系疾患-10		15	小児の血栓性疾患-4

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)	
講義題目	小児神経疾患		必修/選択	必修
担当教員	山本 仁	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	症例に基づき小児の神経疾患の病態を理解する			
講義計画	小児の神経疾患の症例を通して神経系の発達、病態を理解し、診断、治療、管理方法を考えていく。			
達成目標	1. 基本的な小児神経疾患について診断、鑑別ができる。 2. それに伴う治療方針が立てられる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	正常な神経発達について学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	小児の神経系の発達—1		1	小児のけいれん性疾患—1(慢性疾患)
2	小児の神経系の発達—2		2	小児のけいれん性疾患—2
3	小児の神経系の発達—3		3	小児のけいれん性疾患—3
4	小児の神経系の発達—4		4	小児のけいれん性疾患—4
5	小児の神経系の発達—5		5	小児のけいれん性疾患—5
6	小児の神経系の発達—6		6	神経皮膚症候群—1
7	小児のけいれん性疾患—1(急性疾患)		7	神経皮膚症候群—2
8	小児のけいれん性疾患—2		8	神経皮膚症候群—3
9	小児のけいれん性疾患—3		9	神経皮膚症候群—4
10	小児のけいれん性疾患—4		10	神経皮膚症候群—5
11	小児のけいれん性疾患—5		11	筋緊張低下児—1
12	小児のけいれん性疾患—6		12	筋緊張低下児—2
13	小児のけいれん性疾患—7		13	筋緊張低下児—3
14	小児のけいれん性疾患—8		14	筋緊張低下児—4
15	小児のけいれん性疾患—9		15	筋緊張低下児—5

講義担当者承認 ㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)	
講義題目	感染症学		必修/選択	必修
担当教員	勝田友博	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1 単位(前期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な感染症の病態を理解する			
講義計画	種々の基本的な感染症疾患を病態を通して理解し治療法を検討する			
達成目標	1.基本的な感染症疾患について病態を理解し、論理的に説明できる 2.基本的な感染症疾患の病態に基づいた治療を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に特有な感染症について学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	感染症概論		1	
2	臓器別感染症Ⅰ(中枢神経、呼吸器)		2	
3	臓器別感染症Ⅱ(消化器、肝胆道系)		3	
4	臓器別感染症Ⅲ(循環器、腎泌尿器)		4	
5	臓器別感染症Ⅳ(運動器、皮膚、その他)		5	
6	特殊な状況下での感染症		6	
7	細菌感染症Ⅰ		7	
8	細菌感染症Ⅱ		8	
9	細菌感染症Ⅲ		9	
10	細菌感染症Ⅳ		10	
11	ウイルス感染症Ⅰ		11	
12	ウイルス感染症Ⅱ		12	
13	ウイルス感染症Ⅲ		13	
14	ウイルス感染症Ⅳ		14	
15	マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア		15	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)	
講義題目	ワクチン学		必修/選択	必修
担当教員	勝田友博	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1 単位(後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	各種予防接種(ワクチン)について理解する			
講義計画	各種予防接種(ワクチン)の効果、副反応等を理解し接種計画を立てる			
達成目標	1.各種予防接種(ワクチン)の接種時期、効果、副反応等を説明できる 2.ワクチンの基本的な手技ができる。基礎疾患のある児への対応について説明できる。			
教科書・参考書	予防接種の手引き(近代出版)			
準備学習(予習・復習・時間)	予防接種とは何かを学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	予防接種の概要
2			2	予防接種のリスクマネジメント
3			3	疾患とワクチン①(麻疹)
4			4	疾患とワクチン②(風疹)
5			5	疾患とワクチン③(DTP)
6			6	疾患とワクチン④(ポリオ)
7			7	疾患とワクチン⑤(BCG)
8			8	疾患とワクチン⑥(日本脳炎)
9			9	疾患とワクチン⑦(インフルエンザ)
10			10	疾患とワクチン⑧(ムンプス)
11			11	疾患とワクチン⑨(水痘)
12			12	疾患とワクチン⑩(A 型、B 型肝炎)
13			13	疾患とワクチン⑪(Hib、肺炎球菌、他)
14			14	基礎疾患のある児への予防接種
15			15	予防接種と関連する法律

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)	
講義題目	小児循環器病学 I		必修/選択	必修
担当教員	麻生健太郎	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	小児科領域における基本的な心疾患の病態を理解する			
講義計画	先天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。			
達成目標	1. チアノーゼ性先天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。 2. 非チアノーゼ性先天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。			
教科書・参考書	別途指示する。			
準備学習(予習・復習・時間)	先天性心疾患について学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	チアノーゼ性心疾患の診断1		1	
2	チアノーゼ性心疾患の診断2		2	
3	チアノーゼ性心疾患の診断3		3	
4	チアノーゼ性心疾患の管理1		4	
5	チアノーゼ性心疾患の管理2		5	
6	チアノーゼ性心疾患の管理3		6	
7	非チアノーゼ性心疾患の診断1		7	
8	非チアノーゼ性心疾患の診断1		8	
9	非チアノーゼ性心疾患の診断2		9	
10	非チアノーゼ性心疾患の診断3		10	
11	非チアノーゼ性心疾患の診断4		11	
12	非チアノーゼ性心疾患の管理1		12	
13	非チアノーゼ性心疾患の管理2		13	
14	非チアノーゼ性心疾患の管理3		14	
15	非チアノーゼ性心疾患の管理4		15	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)	
講義題目	小児循環器病学Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	麻生健太郎	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	小児科領域における基本的な心疾患の病態を理解する			
講義計画	小児期の不整脈および後天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。			
達成目標	1. 小児期不整脈の診断と管理を症例に基づいて説明できる。 2. 後天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。			
教科書・参考書	別途指示する。			
準備学習(予習・復習・時間)	小児の循環器疾患の基礎を学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	新生児不整脈総論1
2			2	新生児不整脈総論2
3			3	新生児不整脈各論1
4			4	新生児不整脈各論2
5			5	小児期不整脈総論1
6			6	小児期不整脈総論2
7			7	小児期不整脈各論1
8			8	小児期不整脈各論2
9			9	後天性心疾患総論1
10			10	後天性心疾患総論2
11			11	後天性心疾患各論1
12			12	後天性心疾患各論2
13			13	後天性心疾患各論3
14			14	後天性心疾患各論4
15			15	後天性心疾患各論5

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)	
講義題目	小児内分泌・代謝学 I		必修/選択	必修
担当教員	曾根田 瞬	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	小児期に発症する内分泌・代謝疾患の基礎的事項と問題点を理解する			
講義計画	小児における内分泌・代謝疾患の病態を理解し、管理方法について検討する			
達成目標	1. 基本的な内分泌・代謝疾患について病態を論理的に説明できる 2. 基本的な内分泌・代謝疾患の病態に基づいた管理を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期の代謝、内分泌疾患にはどのようなものがあるか学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	総論1:ホルモンとその作用について		1	各論10:性分化異常症
2	総論2:小児の成長とホルモンの関係		2	症例検討会①
3	総論3:マス・スクリーニングについて		3	各論11:水・電解質異常
4	総論4:内分泌・代謝疾患と遺伝学		4	各論12:骨代謝異常
5	総論5:負荷試験の実際		5	各論13:染色体・遺伝子異常疾患
6	特集抄読会:内分泌・代謝班		6	各論14:小児糖尿病の疫学・病態
7	各論1:視床下部・下垂体ホルモン		7	各論15:1型糖尿病・2型糖尿病
8	各論2:成長ホルモンと関連疾患		8	各論16:インスリン治療・その他
9	各論3: 汎下垂体機能低下症		9	各論17:小児メタボリックシンドローム
10	各論4:甲状腺ホルモンの作用と調節		10	各論18:高脂血症・高尿酸血症
11	各論5:先天性甲状腺機能低下症		11	各論19:低血糖をきたす疾患
12	各論6:自己免疫性甲状腺疾患		12	各論20: 高アンモニア・乳酸血症
13	各論7:副腎の構造とホルモンの作用		13	症例検討会②
14	各論8:先天性副腎過形成症		14	総括・復習1:
15	各論9:ゴナドトロピンと性腺ホルモン		15	総括・復習2:

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)	
講義題目	小児悪性腫瘍Ⅰ		必修/選択	必修
担当教員	森 鉄也	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	主な小児悪性腫瘍疾患について病態、診断方法、治療法を理解する。			
講義計画	小児悪性腫瘍の症例を通して、病態、診断、治療について検討する。			
達成目標	1. 代表的な小児悪性腫瘍を診断できる。 2. 代表的な小児悪性腫瘍の治療方針を立てることができる。 3. 小児に対する化学療法について修得する。 4. 化学療法の急性および慢性の合併症に対する予防と対策について修得する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に多い悪性腫瘍を学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義中の受講態度、発言による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	小児悪性腫瘍の疫学		1	小児悪性リンパ腫の疫学
2	小児悪性腫瘍の遺伝学		2	小児悪性リンパ腫の病態
3	小児急性リンパ性白血病の病態		3	小児悪性リンパ腫の診断
4	小児急性リンパ性白血病の診断方法		4	小児悪性リンパ腫の治療
5	小児急性リンパ性白血病の治療		5	小児悪性腫瘍の遺伝子診断
6	小児急性骨髄性白血病の病態		6	小児悪性腫瘍の免疫診断
7	小児急性骨髄性白血病の診断方法		7	小児悪性腫瘍の病理診断
8	小児急性骨髄性白血病の治療		8	小児悪性腫瘍における細菌感染症
9	化学療法の実際		9	小児悪性腫瘍におけるウイルス感染
10	化学療法の急性毒性		10	小児悪性腫瘍における真菌感染症
11	化学療法の晩期障害		11	小児悪性腫瘍患者の栄養管理
12	小児慢性白血病の病態・診断・治療		12	小児悪性腫瘍患者の感染予防
13	小児悪性固形腫瘍の病態		13	小児悪性腫瘍患者の輸血
14	小児悪性固形腫瘍の診断		14	小児悪性腫瘍患者の緩和医療
15	小児悪性固形腫瘍の治療		15	小児悪性腫瘍患者の疼痛対策

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)	
講義題目	小児腎臓病学 I		必修/選択	必修
担当教員	山本 仁	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	症例に基づき腎臓・泌尿器疾患の病態と集学的治療を理解する			
講義計画	腎臓・泌尿器の解剖・組織、生理学を理解した上で、症例に基づき代表的な腎臓・泌尿器疾患の病態と治療を学習する。			
達成目標	1. 基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患についての診断・鑑別ができる。 2. 基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患について集学的治療方針が立てられる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期の腎臓病の特徴を学習しておく。 1 時間			
成績評価法	双方向性の講義を計画しており、講義への関与・貢献度(積極発言を含む)で評価したい			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	腎臓・泌尿器の発生学－1	1	腎生検の適応と臨床評価－1	
2	〃 －2	2	〃 －2	
3	先天性腎泌尿器疾患の種類と病態と集学的治療－1	3	腎・泌尿器感染症の診断と治療－1	
4	〃 －2	4	〃 －2	
5	〃 －3	5	検尿データが読める－1	
6	腎臓・泌尿器の正常組織－1	6	〃 －2	
7	〃 －2	7	学校検尿の判定と評価－1	
8	腎臓疾患の病理像－1	8	〃 －2	
9	〃 －2	9	乳幼児ARFの病態の理解－1	
10	〃 －3	10	〃 －2	
11	糸球体機能と尿細管機能とその検査法－1	11	乳幼児CRFの病態の理解－1	
12	〃 －2	12	〃 －2	
13	小児水・電解質代謝とその異常－1	13	小児輸液療法の理論と実際－1	
14	〃 －2	14	〃 －2	
15	〃 －3	15	〃 －3	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)	
講義題目	小児呼吸器・アレルギー		必修/選択	必修
担当教員	山本 仁	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	小児の呼吸器疾患、アレルギー疾患(食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息)の病態、症状、治療を学習する			
講義計画	小児呼吸器の特性とアレルギーのメカニズムを理解し、各疾患の治療を理解する。			
達成目標	1. 代表的な小児呼吸器疾患の診断・治療ができる。 2. 食物アレルギーの診断、食事・栄養指導ができる。 3. アトピー性皮膚炎、気管支喘息の診断、治療ができる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期の呼吸器、アレルギー疾患で多いものを学習しておく。 1 時間			
成績評価法	講義の理解度、積極性などを総合して評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	小児呼吸器の特徴-1		1	アレルギーのメカニズム-1
2	小児呼吸器の特徴-2		2	アレルギーのメカニズム-2
3	喘鳴をきたす疾患-1		3	アレルギーのメカニズム-3
4	喘鳴をきたす疾患-2		4	アレルギーの検査-1
5	小児の肺炎・気管支炎-1		5	アレルギーの検査-2
6	小児の肺炎・気管支炎-2		6	食物アレルギー-1
7	小児の肺炎・気管支炎-3		7	食物アレルギー-2
8	小児の気胸		8	アトピー性皮膚炎-1
9	気管支異物		9	アトピー性皮膚炎-2
10	気管支喘息-1		10	アレルギー性鼻炎-1
11	気管支喘息-2		11	アレルギー性鼻炎-2
12	気管支喘息-3		12	外用薬の使用法
13	胸部X線のみかた-1		13	抗アレルギー薬の使用法
14	胸部X線のみかた-2		14	食物負荷試験の実際-1
15	胸部X線のみかた-3		15	食物負荷試験の実際-2

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(15)

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)	
講義題目	小児科実習		必修/選択	必修
担当教員	右田王介	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	1年	
テーマと目的	小児に対する実技を習得する			
講義計画	検査や手技の実技、実習を実際の検査などを通じて行う			
達成目標	必要な検査・手技を正確に、患児に負担なく実施できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児科特有の手技について学習しておく。 1 時間			
成績評価法	実技の習得、到達度			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	小児診察法—1		1	乳幼児健診—1
2	小児診察法—2		2	乳幼児健診—2
3	小児診察法—3		3	乳幼児健診—3
4	小児診察法—4		4	心臓カテーテル検査—1
5	小児診察法—5		5	心臓カテーテル検査—2
6	小児の採血と点滴の手技—1		6	心臓カテーテル検査—3
7	小児の採血と点滴の手技—2		7	脳波所見の読み方—1
8	小児の採血と点滴の手技—3		8	脳波所見の読み方—2
9	小児の髄液採取の手技		9	脳波所見の読み方—3
10	小児の骨髄液採取の手技		10	予防接種の実際—1
11	小児救急—気管内挿管の手技		11	予防接種の実際—2
12	小児救急—心肺蘇生法		12	予防接種の実際—3
13	小児救急—ハイムリック法		13	腎生検の実際—1
14	新生児蘇生—1		14	腎生検の実際—2
15	新生児蘇生—2		15	腎生検の実際—3

講義担当者承認

◎印

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(16)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)	
講義題目	小児循環器病学Ⅲ		必修/選択	選択
担当教員	麻生健太郎	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	小児科領域における基本的な心疾患の病態を理解する			
講義計画	先天性心疾患の出生前診断および出生後の管理を理解する			
達成目標	1. 先天性心疾患の出生前診断について症例に基づいて説明できる。 2. 出生後の管理、治療方針を症例に基づいて計画できる。			
教科書・参考書	別途指示する。			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に特有な心疾患について学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	出生前診断総論1		1	
2	出生前診断総論2		2	
3	出生前診断各論1		3	
4	出生前診断各論2		4	
5	出生前診断各論3		5	
6	出生後管理総論1		6	
7	出生後管理総論2		7	
8	出生後管理各論1		8	
9	出生後管理各論2		9	
10	出生後管理各論3		10	
11	出生前治療総論		11	
12	出生前治療各論		12	
13	出生後治療総論		13	
14	出生後治療各論1		14	
15	出生後治療各論2		15	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(17)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)		
講義題目	免疫学		必修/選択	選択	
担当教員	勝田友博	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1 単位(前期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	原発性免疫不全症候群の基本を理解する				
講義計画	症例を通して、原発性免疫不全症候群は易感染性を呈する症状から診断を疑い、種々の生化学検査によって確定診断へと導く				
達成目標	1.原発性免疫不全症候群診断のアプローチができる 2.原発性免疫不全症候群患者の感染のコントロールと治療が説明できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	免疫不全とは何か学習しておく。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	原発性免疫不全症の分類		1		
2	原発性免疫不全症の診断		2		
3	原発性免疫不全症の治療		3		
4	原発性免疫不全症患者の感染コントロール		4		
5	各論①(複合型免疫不全症)		5		
6	各論②(抗体不全免疫不全症)		6		
7	各論③(他に大きな欠損を付随した免疫不全症)		7		
8	各論④(食細胞系異常)		8		
9	各論⑤(補体因子欠損症)		9		
10	各論⑥(その他の免疫不全症)		10		
11	各論⑦(HIV)		11		
12	各論⑧(ウイルス感染と続発性免疫不全)		12		
13	各論⑨(薬物)		13		
14	自己免疫とリウマチ性疾患総論		14		
15	自己免疫とリウマチ性疾患各論		15		

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(18)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)	
講義題目	新生児学Ⅲ		必修/選択	選択
担当教員	北東 功	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1 単位(前期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	低出生体重児・早産児の管理			
講義計画	低出生体重児の総合管理について学ぶ			
達成目標	1. 適切な・輸液・栄養管理 2. 中枢神経保護 3. 親子関係 4. 適切な哺育環境の整備			
教科書・参考書	Avery,Fletcher,MacDonald:Neonatology			
準備学習(予習・復習・時間)	低出生体重児の特徴を学習しておく。 1 時間			
成績評価法	口頭試験			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)			
1	低出生体重児の水分代謝・不感蒸泄と腎機能			
2	腎の Na 維持能力・超低出生体重児の高 K 血症			
3	母乳による低出生体重児の哺育・未熟児骨代謝性疾患の管理			
4	中心静脈カテーテル挿入法・高カロリー輸液・栄養状態の評価			
5	新生児脳障害の理解・低酸素性虚血性脳症の管理			
6	新生児頭蓋内出血への対処・低出生体重児の脳室内出血の予防			
7	脳室周囲白質軟化症			
8	中枢神経奇形への対処			
9	成熟度評価・発達評価			
10	NICU 入院児の親の心理・母子分離下の母乳育児			
11	親参加型ケアとは・タッチケア			
12	カンガルーケア			
13	NICU 環境の整備・新生児へのなだめ			
14	音環境・光環境・温度環境			
15	新生児行動評価・ストレスサイン・ポジショニング			

講義担当者承認

印

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(19)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)	
講義題目	小児血液学Ⅱ		必修/選択	選択
担当教員	瀧 正志	担当教員連絡先	内線:西部病院 3209	
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	症例に基づき小児の輸血感染症の病態を理解する			
講義計画	種々の小児の輸血感染症の症例を通して病態を理解し、治療方針および管理方法を検討する。			
達成目標	1. 基本的な小児の輸血感染症について論理的に診断、鑑別できる。 2. 基本的な小児の輸血感染症について病態に基づいた治療方針が立てられる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	輸血感染症にはどのようなものがあるか学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	HBV-1
2			2	HBV-2
3			3	HBV -3
4			4	HBV -4
5			5	HBV -5
6			6	HCV-1
7			7	HCV -2
8			8	HCV -3
9			9	HCV -4
10			10	HCV -5
11			11	HIV-1
12			12	HIV -2
13			13	HIV -3
14			14	HIV -4
15			15	HIV -5

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(20)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)	
講義題目	アレルギー疾患		必修/選択	選択
担当教員	山本 仁	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	アレルギー疾患の外来フォローの仕方、環境との関係、家族への対処を学ぶ			
講義計画	具体的な症例を提示し、アレルギー疾患の実際を学ぶ			
達成目標	1. アレルギー疾患の外来フォロー、家族への対処ができる。 2. アレルギー児を持つ親の心理的負担などを理解する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	アレルギーという概念を学習しておく。 1 時間			
成績評価法	講義の理解度、積極性			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	小児喘息と環境－1		1	
2	小児喘息と環境－2		2	
3	小児喘息の外来フォロー－1		3	
4	小児喘息の外来フォロー－2		4	
5	小児気管支喘息治療・管理ガイドライン－1		5	
6	小児気管支喘息治療・管理ガイドライン－2		6	
7	小児気管支喘息治療・管理ガイドライン－3		7	
8	食物アレルギーの外来フォロー－1		8	
9	食物アレルギーの外来フォロー－2		9	
10	One airway,one disease とは－1		10	
11	One airway,one disease とは－2		11	
12	アレルギー児を持つ家族－1		12	
13	アレルギー児を持つ家族－1		13	
14	アレルギー疾患今後の展望－1		14	
15	アレルギー疾患今後の展望－2		15	

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(21)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)	
講義題目	小児内分泌・代謝学Ⅱ		必修/選択	選択
担当教員	曾根田 瞬	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	小児期に発症する特殊な内分泌・代謝疾患を理解し診断・管理能力を身につける			
講義計画	小児における特殊な内分泌・代謝疾患を知り、病態・診断法・管理について検討する			
達成目標	1. 比較的稀な内分泌・代謝疾患について病態と遺伝学的特徴について理解する 2. 特殊な内分泌・代謝疾患の診断方法と病態に基づいた管理を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に多い内分泌、代謝疾患を学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	総論1:内分泌臓器の発生について
2			2	総論2:集団検診の役割
3			3	総論3:遺伝子診断の適応と実際
4			4	総論4:代謝疾患診断における特殊検査
5			5	総論5: 特殊ミルクによる治療について
6			6	症例検討会①
7			7	各論1:下垂体発生に関わる転写因子
8			8	各論2:腫瘍性疾患と内分泌異常
9			9	各論3:自己免疫性多腺性内分泌障害
10			10	各論4:先天性副腎機能低下症
11			11	各論5:骨系統疾患
12			12	各論6:低血糖をきたす代謝異常症
13			13	各論7:特殊な先天代謝異常症
14			14	各論8:稀な染色体・遺伝子異常
15			15	総括・復習

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(22)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)	
講義題目	小児悪性腫瘍Ⅱ		必修/選択	選択
担当教員	森 鉄也	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	主な小児悪性腫瘍疾患について病態、診断方法、治療法を理解する。			
講義計画	小児悪性腫瘍の症例を通して、病態、診断、治療について検討する。			
達成目標	1. 代表的な小児悪性腫瘍を診断できる。 2. 代表的な小児悪性腫瘍の治療方針を立てることができる。 3. 小児悪性腫瘍に対する臨床試験について理解する。 4. 小児悪性腫瘍の臨床試験を立案する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期特有の悪性疾患について学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義中の受講態度、発言による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	臨床試験の歴史		1	
2	臨床試験の目的		2	
3	標準治療と臨床試験の違い		3	
4	臨床試験の計画方法		4	
5	臨床試験の統計学		5	
6	小児悪性腫瘍の EBM		6	
7	小児悪性腫瘍の国際共同研究		7	
8	小児悪性腫瘍に関わる倫理		8	
9	小児悪性腫瘍のデータ管理		9	
10	小児悪性腫瘍の社会的問題		10	
11	インフォームドコンセントとアセント		11	
12	小児がんのトランスレーショナルリサーチ		12	
13	小児悪性腫瘍の分子標的治療		13	
14	小児悪性腫瘍の新規治療		14	
15	小児悪性腫瘍の免疫療法		15	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(23)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)	
講義題目	小児筋疾患		必修/選択	選択
担当教員	山本 仁	担当教員連絡先	内線 3321	
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	症例に基づき小児の神経疾患の病態を理解する			
講義計画	小児の筋疾患の症例を通して神経系の発達、病態を理解し、診断、治療、管理方法を考えていく。			
達成目標	1. 基本的な小児筋疾患について診断、鑑別ができる。 2. それに伴う治療方針が立てられる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	小児期からみられる筋疾患について学習しておく。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	筋ジストロフィーー1
2			2	筋ジストロフィーー2
3			3	筋ジストロフィーー3
4			4	筋ジストロフィーー4
5			5	筋ジストロフィーー5
6			6	筋ジストロフィーー6
7			7	筋ジストロフィーー7
8			8	筋ジストロフィーー8
9			9	ミトコンドリア脳筋症ー1
10			10	ミトコンドリア脳筋症ー2
11			11	ミトコンドリア脳筋症ー3
12			12	ミトコンドリア脳筋症ー4
13			13	ミトコンドリア脳筋症ー5
14			14	ミトコンドリア脳筋症ー6
15			15	ミトコンドリア脳筋症ー7

講義担当者承認 ⑨

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(24)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(小児科学)		
講義題目	小児腎臓病学Ⅱ		必修/選択	選択	
担当教員	山本 仁	担当教員連絡先	内線 3321		
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	症例に基づき腎臓・泌尿器疾患の病態と集学的治療を理解する				
講義計画	腎臓・泌尿器の解剖・組織、生理学を理解した上で、症例に基づき代表的な腎臓・泌尿器疾患の病態と治療を学習する。				
達成目標	1. 基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患についての診断・鑑別ができる。 2. 基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患について集学的治療方針が立てられる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	小児期に多い腎疾患を学習しておく。 1 時間				
成績評価法	双方向性の講義を計画しており、講義への関与・貢献度(積極発言を含む)で評価したい				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	ネフローゼ症候群の病態と診断・治療－1		1		
2	〃－2		2		
3	急性腎炎症候群の病態と診断・治療－1		3		
4	〃－2		4		
5	慢性腎炎症候群の病態と診断・治療－1		5		
6	〃－2		6		
7	〃－3		7		
8	〃－4		8		
9	乳幼児のARFの病態と診断・治療－1		9		
10	〃－2		10		
11	乳幼児CRFに対してCAPD・HD腎移植と集学的対応－1		11		
12	〃－2		12		
13	〃－3		13		
14	腎生検の術者・介助者として研修－1		14		
15	〃－2		15		

講義担当者承認 (印)

【54-3】平成30年度 大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	高度臨床医育成コース(神経精神科学) (Training course for physicians with professional skills)
研究指導教員	古 茶 大 樹
研究・教育の概略	精神医学は、精神症状(異常精神現象)の診断と治療に力点を置くと同時に、幅広く人間の精神現象(正常精神現象も含む)を扱う学問である。「医学的方法にて心の悩み・ゆがみを如何に解決するか」が治療である。そして治療法には、精神療法と身体療法(薬物療法・電気けいれん療法など)がある。精神は、あらゆる人間の機能の中ですべてを統括する高度な機能である。ゲノム科学の発達により、物質的に生命活動(精神活動を含む)を解明できる期待感があり、臓器(脳科学)中心主義に傾く可能性がある。しかし、現状における解明は未だ困難であるため、心を重視し、ヒト全体を把握する必要性が生じる。 ヒトの心を診るとは目の前にいる患者の眼差し、表情、動作、身繕いなど、その一挙手一投足を真剣に見つめ、入念な面接を繰り返しながら、その異変を構成している精神医学的徴候を丹念に解き明かしていくプロセスである。これが精神医学の『臨床』というべきものであり、大変に興味深い。精神医学において、臨床的な客観徴候の大部分は患者そのものから表出されるので、このプロセスなくして精神医学の臨床は成立しない。その際、自らを客観的に中立的に置き、監視し、対応することが重要である。 その次に生じてくる興味は、おそらく眼の前にある精神現象の異変がなぜ起こってくるのかということに向けられてくるはずである。患者をよく診れば診るほど、「何故」という疑問は深くなってくる。これを解き明かしていくプロセスが『研究』で、疑問が素朴であるほど重要な研究テーマになることが多く、従って患者を目の前にした時、常に「何故」という姿勢が重要になってくる。精神医学的方法論には、理科系の方法として、生物学的精神医学、精神薬理学、分子遺伝学、大脳病理学など、文化系の方法として、精神病理学(記述精神医学)、精神分析学(力動精神医学)、社会精神医学、司法精神医学などがある。 本分野では臨床へ還元しうる教育、研究を行う。講義・実習の内容は大学院生の研究成果、修得状況を勘案し柔軟に対応する。
研究項目	1. 治療介入による統合失調症患者の認知機能および症候学的変化に関する研究 2. 抗精神病薬投与下における統合失調症患者の主観的症状評価 3. うつ病モデルラットを用いたうつ病の病態形成の探求 4. うつ病と神経成長因子および認知機能との関係性の探索 5. アルツハイマー型認知症の症状進行に関連する因子の探索 6. 精神科分野でのプロテオミクスの手法による解析方法の開発 7. レビー小体型認知症の認知機能的特徴の探索
準備学習(予習・復習)	1. 事前より担当教員と連絡をとり、指導を仰ぐこと 2. 事前に参考資料を読むこと 3. 事後に要点を確認すること

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(神経精神科学)	
講義題目	精神科関連疾患Ⅰ		必修/選択	必修
担当教員	長田 賢一	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	2 単位(前期Ⅰ・後期Ⅰ)	履修年次	1 年	
テーマと目的	精神科関連疾患について基礎的な知識を得る。			
講義計画	様々な精神科関連疾患について基礎的な知識を得、臨床への応用を検討する。			
達成目標	1. 基本的な精神科疾患について基礎的な知識を説明できる。 2. 臨床への応用をおおまかに計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	双極性障害病態の理解から治療戦略まで第2版医学書院 加藤忠史著改訂 老年精神医学講座・総論各論 日本老年精神医学会編を読んでおくこと 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	大うつ病性障害の診断基準		1	双極性障害の概念
2	大うつ病性障害の症状Ⅰ		2	双極性障害の診断基準
3	大うつ病性障害の症状Ⅱ		3	双極Ⅰ型障害の症状Ⅰ
4	大うつ病性障害の症状Ⅲ		4	双極Ⅰ型障害の症状Ⅱ
5	大うつ病性障害の症状Ⅳ		5	双極Ⅰ型障害の症状Ⅲ
6	器質性精神障害、抑うつを伴うもの		6	双極Ⅱ型障害の症状Ⅰ
7	物質関連障害、抑うつを伴うもの		7	双極Ⅱ型障害の症状Ⅱ
8	症状精神病、抑うつを伴うもの		8	双極Ⅱ型障害の症状Ⅲ
9	大うつ病性障害の疫学		9	混合状態の特徴、注意点
10	老年期うつ病の特徴Ⅰ		10	双極性障害の疫学
11	老年期うつ病の特徴Ⅱ		11	器質性精神障害、躁症状を伴うもの
12	老年期うつ病の特徴Ⅲ		12	物質関連障害、躁症状を伴うもの
13	希死念慮について		13	症状精神病、躁症状を伴うもの
14	うつ病の基本的治療法		14	基本的治療法
15	口頭試問		15	口頭試問

講義担当者承認 ⑨

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(神経精神科学)	
講義題目	精神科関連疾患Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	古茶 大樹	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	精神科関連疾患について基礎的な知識を得る。			
講義計画	様々な精神科関連疾患について基礎的な知識を得、臨床への応用を検討する。			
達成目標	1.基本的な精神科疾患について基礎的な知識を説明できる。 2.臨床への応用をおおまかに計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	統合失調症の概念		1	失調感情障害の診断基準
2	統合失調症の疫学		2	失調感情障害の症状Ⅰ
3	統合失調症の診断基準		3	失調感情障害の症状Ⅱ
4	統合失調症の病型		4	統合失調症と失調感情障害の鑑別
5	統合失調症の症状Ⅰ		5	基本的治療法
6	統合失調症の症状Ⅱ		6	短期精神病性障害の診断基準
7	統合失調症の症状Ⅲ		7	短期精神病性障害の症状
8	統合失調症の症状Ⅳ		8	基本的治療法、対処法
9	統合失調症の症状Ⅴ		9	二人組精神病の診断基準
10	器質性精神障害、幻覚妄想を伴う		10	妄想性障害の診断基準
11	物質関連障害、幻覚妄想を伴う		11	基本的治療法
12	症状精神病、幻覚妄想を伴う		12	PANSS の基礎知識
13	統合失調症の基本的治療法Ⅰ		13	DIEPSS の基礎知識
14	統合失調症の基本的治療法Ⅱ		14	統合失調症関連疾患の鑑別ポイント
15	口頭試問		15	口頭試問

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(神経精神科学)	
講義題目	精神科治療学Ⅰ		必修/選択	必修
担当教員	長田 賢一	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	2 単位(前期 2)	履修年次	1 年	
テーマと目的	精神科関連疾患の治療について基礎的な知識を得る。			
講義計画	様々な精神科関連疾患の治療について基礎的な知識を得、臨床への応用を検討する。			
達成目標	1.基本的な精神科疾患の治療について基礎的な知識を説明できる。 2.臨床への応用を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	1.事前に参考資料を読むこと 1 時間 2.事後に要点を確認すること			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	前期(回)	内 容 (出席◎)
1	精神科治療の歴史		1	感情障害の治療法
2	身体療法についてⅠ		2	抗うつ薬Ⅰ
3	身体療法についてⅡ		3	抗うつ薬Ⅱ
4	向精神薬の歴史		4	感情調節薬
5	向精神薬の概要		5	抗不安薬の使用法
6	統合失調症急性期治療、興奮		6	大うつ病性障害の薬物治療Ⅰ
7	統合失調症急性期治療、昏迷		7	大うつ病性障害の薬物治療Ⅱ
8	基本的な抗精神病薬の使用法		8	双極性障害の薬物治療Ⅰ
9	統合失調症治療の効果判定		9	双極性障害の薬物治療Ⅱ
10	維持期の治療		10	ECT の歴史
11	慢性期統合失調症の薬物治療		11	現在の ECT
12	アカシジア、薬原性錐体外路症状		12	維持療法
13	急性期ジストニア、遅発性ジスキネジア		13	精神療法
14	口頭試問		14	口頭試問
15	口頭試問		15	口頭試問

講義担当者承認

㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(神経精神科学)	
講義題目	精神科診断学概論 I		必修/選択	必修
担当教員	長田 賢一	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	2 単位(前期 2)	履修年次	1 年	
テーマと目的	精神科関連疾患について基礎的な診断基準の修得。			
講義計画	様々な精神科関連疾患について基礎的な診断基準の修得し、鑑別診断を検討する。			
達成目標	1.基本的な精神科疾患について基礎的な診断基準を説明できる。 2.系統だった鑑別診断を説明できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書、参考書の該当部分を読んでおくこと 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)		前期(回)	内 容 (出席⑩)
1	状態像と症候群について		1	統合失調症の診断基準
2	抑うつ状態		2	大うつ病エピソードの診断基準
3	不安症候群		3	躁病エピソードの診断基準
4	精神運動抑制状態		4	パニック発作の診断基準
5	昏迷状態		5	広場恐怖の診断基準
6	不眠症候群		6	社会不安障害の診断基準
7	摂食障害群		7	全般性不安障害の診断基準
8	精神運動興奮状態		8	強迫性障害の診断基準
9	躁状態		9	転換性障害の診断基準
10	脱抑制状態		10	心気症の診断基準
11	幻覚妄想状態		11	解離性健忘、とん走の診断基準
12	せん妄状態		12	境界性人格障害の診断基準
13	健忘症候群		13	自己愛性人格障害の診断基準
14	見当識障害		14	反社会性人格障害の診断基準
15	口頭試問		15	口頭試問

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(神経精神科学)	
講義題目	精神科治療学Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	古茶 大樹	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	2 単位(後期 2)	履修年次	1 年	
テーマと目的	精神科関連疾患の治療について基礎的な知識を得る。			
講義計画	様々な精神科関連疾患の治療についての知識を得、臨床への応用を検討する。			
達成目標	1.精神科疾患の治療について説明できる。 1 時間 2.臨床への応用を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	1.事前に参考資料を読むこと 2.事後に要点を確認すること			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
後期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	老年期精神障害治療の概要		1	認知症の診断、治療について
2	老年期のストレスⅠ		2	認知症のタイプⅠ
3	老年期のストレスⅡ		3	認知症のタイプⅡ
4	老年期のストレスⅢ		4	認知症のタイプⅢ
5	老年期のストレスⅣ		5	認知症のタイプⅣ
6	老年期の代謝Ⅰ		6	認知症のタイプⅤ
7	老年期の代謝Ⅱ		7	画像診断Ⅰ
8	老年期の代謝Ⅲ		8	画像診断Ⅱ
9	老年期うつ病の特徴		9	画像診断Ⅲ
10	重度うつ病に伴う幻覚妄想		10	認知機能評価Ⅰ
11	心気念慮		11	認知機能評価Ⅱ
12	治療薬の選択		12	認知機能評価Ⅲ
13	処方量		13	治療薬
14	電気けいれん療法		14	これからの治療薬の試み
15	口頭試問		15	口頭試問

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(神経精神科学)	
講義題目	精神科診断学概論実習		必修/選択	必修
担当教員	古茶 大樹	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	1 単位(後期)	履修年次	1 年	
テーマと目的	基礎的な精神科疾患についての面接技法の修得。			
講義計画	様々な精神科疾患について基礎的な面接技法を実習、修得し、診断を検討する。			
達成目標	1.実際に患者さんと面接し、基礎的な面接技法を修得する。 2.系統だった面接によって診断に至ることができる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	実施後にレポート提出 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での実習内容および患者さんに対する面接態度による総合評価			
講 義 内 容				
後期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	統合失調症患者の面接概要		1	精神運動抑制に関する面接技法
2	いわゆるラポールについて		2	思考抑制に関する面接技法
3	幻覚に関する面接技法		3	心気念慮に関する面接技法
4	妄想に関する面接技法		4	自責感に関する面接技法
5	自我障害に関する面接技法		5	不眠、食思不振に関する面接技法
6	睡眠、摂食に関する面接技法		6	家族教育
7	緊張病、昏迷状態での面接技法		7	例題Ⅰ
8	例題Ⅰ		8	例題Ⅱ
9	例題Ⅱ		9	例題Ⅲ
10	例題Ⅲ		10	人格障害患者の面接概要
11	感情障害患者の面接概要		11	共感の重要性
12	基本的態度		12	怒りの転移
13	抑うつ気分に関する面接技法		13	抑うつ感に関する面接技法
14	不安に関する面接技法		14	イライラ感に関する面接技法
15	焦燥感に関する面接技法		15	例題

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(神経精神科学)	
講義題目	精神科関連疾患Ⅲ		必修/選択	必修
担当教員	古茶 大樹	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	精神科関連疾患についての最近の知見を得る。			
講義計画	様々な精神科関連疾患について最近の知見を得、研究への応用を検討する。			
達成目標	1.特定の精神科疾患について最近の知見を説明できる。 2.研究への応用をおおまかに計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	統合失調症治療の最近の動向		1	処方薬と薬剤性認知機能障害
2	いわゆる CATIE study について		2	大量処方Ⅰ
3	baseline study について		3	大量処方Ⅱ
4	各種抗精神病薬の有効性、副作用Ⅰ		4	大量処方Ⅲ
5	各種抗精神病薬の有効性、副作用Ⅱ		5	抗コリン薬の有効性、副作用Ⅰ
6	各種抗精神病薬の有効性、副作用Ⅲ		6	抗コリン薬の有効性、副作用Ⅱ
7	各種抗精神病薬の有効性、副作用Ⅳ		7	統合失調症の認知機能低下
8	各種抗精神病薬の作用機序の差異Ⅰ		8	抗精神病薬による神経保護作用
9	各種抗精神病薬の作用機序の差異Ⅱ		9	抗精神病薬による認知機能障害
10	各種抗精神病薬の作用機序の差異Ⅲ		10	抗コリン薬による認知機能障害
11	各種抗精神病薬の作用機序の差異Ⅳ		11	主観的ウェルビーイング
12	各種抗精神病薬のコスト、効果Ⅰ		12	GLYT1 阻害薬
13	各種抗精神病薬のコスト、効果Ⅱ		13	NK3 受容体拮抗薬
14	perphenazine の意味すること		14	プラセボ対照試験
15	口頭試問		15	口頭試問

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(神経精神科学)		
講義題目	精神科関連疾患Ⅳ		必修/選択	必修	
担当教員	長田 賢一	担当教員連絡先	内線 3202		
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	精神科関連疾患についての最近の知見を得る。				
講義計画	様々な精神科関連疾患について最近の知見を得、研究への応用を検討する。				
達成目標	1.特定の精神科疾患について最近の知見を説明できる。 2.研究への応用をおおまかに計画できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	臨床精神薬理ハンドブック 樋口輝彦、小山司、神庭重信編集 医学書院を読んでおく こと 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	感情安定薬について		1	抗精神病薬の副作用について	
2	炭酸リチウムⅠ		2	アカシジア	
3	炭酸リチウムⅡ		3	錐体外路症状	
4	炭酸リチウムⅢ		4	薬剤性パーキンソニズムⅠ	
5	バルプロ酸ナトリウムⅠ		5	薬剤性パーキンソニズムⅡ	
6	バルプロ酸ナトリウムⅡ		6	急性ジストニア	
7	カルバマゼピンⅠ		7	遅発性ジスキネジアⅠ	
8	カルバマゼピンⅡ		8	遅発性ジスキネジアⅡ	
9	蛋白リン酸化		9	遅発性ジストニアⅠ	
10	プロテインキナーゼ C		10	遅発性ジストニアⅡ	
11	セカンドメッセンジャー		11	悪性症候群Ⅰ	
12	遺伝子への関与		12	悪性症候群Ⅱ	
13	GAP 43		13	横紋筋融解症	
14	神経成長因子、神経保護作用		14	高プロラクチン血症	
15	口頭試問		15	口頭試問	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(神経精神科学)		
講義題目	精神科治療学Ⅲ		必修/選択	必修	
担当教員	古茶 大樹	担当教員連絡先	内線 3202		
単位数	2 単位(前期 2)	履修年次	2 年		
テーマと目的	精神科関連疾患の治療について基礎的な知識を得る。				
講義計画	様々な精神科関連疾患の治療についての知識を得、臨床への応用を検討する。				
達成目標	1.精神科疾患の治療について説明できる。 2.臨床への応用を計画できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席◎)		前期(回)	内 容 (出席◎)	
1	第 2 世代抗精神病薬の概要		1	日本の精神科薬物治療の現実	
2	第 2 世代抗精神病薬Ⅰ		2	大量多剤投与の弊害	
3	第 2 世代抗精神病薬Ⅱ		3	大量多剤投与の原因Ⅰ	
4	第 2 世代抗精神病薬Ⅲ		4	大量多剤投与の原因Ⅱ	
5	第 2 世代抗精神病薬Ⅳ		5	大量多剤投与の原因Ⅲ	
6	第 2 世代抗精神病薬Ⅴ		6	処方改善を阻む因子Ⅰ	
7	単剤処方		7	処方改善を阻む因子Ⅱ	
8	治療効果の評価について		8	処方改善を阻む因子Ⅲ	
9	主観的ウェルビーイング		9	単剤処方へのスイッチング	
10	神経保護作用		10	スイッチング過程の諸問題Ⅰ	
11	脳由来栄養因子		11	スイッチング過程の諸問題Ⅱ	
12	スイッチングについてⅠ		12	スイッチング過程の諸問題Ⅲ	
13	スイッチングについてⅡ		13	スイッチングの実際Ⅰ	
14	スイッチングについてⅢ		14	スイッチングの実際Ⅱ	
15	口頭試問		15	口頭試問	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(神経精神科学)	
講義題目	精神科治療学Ⅳ		必修/選択	必修
担当教員	長田 賢一	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	1 単位(後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	精神科関連疾患の治療について基礎的な知識を得る。			
講義計画	様々な精神科関連疾患の治療についての知識を得、臨床への応用を検討する。			
達成目標	1.精神科疾患の治療について説明できる。 2.臨床への応用を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	向精神薬の神経保護作用Ⅰ
2			2	向精神薬の神経保護作用Ⅱ
3			3	向精神薬の神経保護作用Ⅲ
4			4	脳由来栄養因子
5			5	サイトカイン
6			6	統合失調症患者の画像検査
7			7	統合失調症と頭部 MRI 画像Ⅰ
8			8	統合失調症と頭部 MRI 画像Ⅱ
9			9	統合失調症と頭部 MRI 画像Ⅲ
10			10	向精神薬と頭部 PET 画像Ⅰ
11			11	向精神薬と頭部 PET 画像Ⅱ
12			12	向精神薬と頭部 PET 画像Ⅲ
13			13	evidence based medicineⅠ
14			14	evidence based medicineⅡ
15			15	口頭試問

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(神経精神科学)	
講義題目	精神科診断学概論Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	古茶 大樹	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	2 単位(前期 2)	履修年次	2 年	
テーマと目的	精神科関連疾患について基礎的な診断基準の修得。			
講義計画	様々な精神科関連疾患について基礎的な診断基準の修得し、鑑別診断を検討する。			
達成目標	1.基本的な精神科疾患について基礎的な診断基準を説明できる。 2.系統だった鑑別診断を説明できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	1.事前に参考資料を読むこと 1 時間 2.事後に要点を確認すること			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		前期(回)	内 容 (出席◎)
1	長谷川式簡易知能評価スケール		1	画像診断(MRI と SPECT)Ⅰ
2	STM-COMET		2	画像診断(MRI と SPECT)Ⅱ
3	MMSE		3	画像診断(MRI と SPECT)Ⅲ
4	アルツハイマー型認知症の認知能低下Ⅰ		4	画像診断(MRI と SPECT)Ⅳ
5	アルツハイマー型認知症の認知能低下Ⅱ		5	レビー小体型認知症の特徴Ⅰ
6	アルツハイマー型認知症の認知能低下Ⅲ		6	レビー小体型認知症の特徴Ⅱ
7	アルツハイマー型認知症の認知能低下Ⅳ		7	レビー小体型認知症の特徴Ⅲ
8	mild cognitive impairment		8	前頭側頭型認知症の特徴Ⅰ
9	診断基準のあいまいさ		9	前頭側頭型認知症の特徴Ⅱ
10	AD の周辺症状Ⅰ		10	前頭側頭型認知症の特徴Ⅲ
11	AD の周辺症状Ⅱ		11	血管性認知症の診断基準
12	AD の周辺症状Ⅲ		12	クロイツフェルトーヤコブ病
13	アルツハイマー型認知症とうつ病		13	大脳皮質基底核変性症
14	アルツハイマー型認知症と海馬		14	進行性核上性麻痺
15	口頭試問		15	口頭試問

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(神経精神科学)	
講義題目	精神科診断学概論Ⅲ		必修/選択	必修
担当教員	長田 賢一	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	1 単位(後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	精神科関連疾患について基礎的な診断基準の修得。			
講義計画	様々な精神科関連疾患について基礎的な診断基準の修得し、鑑別診断を検討する。			
達成目標	1.基本的な精神科疾患について基礎的な診断基準を説明できる。 2.系統だった鑑別診断を説明できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	1.事前に参考資料を読むこと 1 時間 2.事後に要点を確認すること			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	せん妄Ⅰ
2			2	せん妄Ⅱ
3			3	せん妄Ⅲ
4			4	器質性精神障害Ⅰ
5			5	器質性精神障害Ⅱ
6			6	器質性精神障害Ⅲ
7			7	症状精神病Ⅰ
8			8	症状精神病Ⅱ
9			9	症状精神病Ⅲ
10			10	物質関連障害Ⅰ
11			11	物質関連障害Ⅱ
12			12	物質関連障害Ⅲ
13			13	睡眠障害Ⅰ
14			14	睡眠障害Ⅱ
15			15	口頭試問

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(神経精神科学)	
講義題目	臨床精神医学特論		必修/選択	選択
担当教員	古茶 大樹	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	1 単位(通年第3金曜日)	履修年次	1 年	
テーマと目的	精神科臨床上の現在の問題をとりあげ、臨床上に生かす			
講義計画	精神科関連疾患で現在話題になっていること、問題、現象、疾患、治療について特別講師を招聘し、講義いただく。			
達成目標	1.精神科臨床上の最近の問題について説明できる。 2.臨床への応用を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	SSRI の最近の話題	1		
2	前方型認知症について	2		
3	精神疾患における認知行動療法	3		
4	分子イメージングで探る精神疾患の病態と治療	4		
5	軽度発達障害の病態・診断・治療	5		
6	癌治療における精神医学的な問題とそれの対応について	6		
7	認知症と生活習慣病	7		
8	口頭試問	8		
9		9		
10		10		
11		11		
12		12		
13		13		
14		14		
15		15		

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(神経精神科学)	
講義題目	精神療法特論		必修/選択	選択
担当教員	長田 賢一	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	1 単位(前期4回・後期4回)	履修年次	1 年	
テーマと目的	力動的精神療法を学習し、臨床面接に応用する			
講義計画	様々な臨床場面における力動的精神療法の実際を学習し、問題点を検討する。 (前期 4 回、後期 4 回:講義日は受講者に随時連絡)			
達成目標	1.力動的精神療法について説明できる 2.精神療法の適応の可否を理解できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	参考資料を読んでおくこと 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	力動的精神療法について	1	操作的診断基準の限界	
2	虐待を行ってしまう母親への治療的なアプローチ	2	思春期の個人精神療法	
3	力動面接について	3	小児科における心理士の臨床活動	
4	子どものアセスメントと治療構造	4	口頭試問	
5		5		
6		6		
7		7		
8		8		
9		9		
10		10		
11		11		
12		12		
13		13		
14		14		
15		15		

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(15)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(神経精神科学)	
講義題目	うつ病治療学		必修/選択	選択
担当教員	長田賢一	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	1 単位(通年第 1 水曜日)	履修年次	2 年	
テーマと目的	薬物療法、精神療法などうつ病の治療全般について			
講義計画	うつ病の治療についての知識を得、臨床への応用を検討する。			
達成目標	1.うつ病治療について理解し説明できる。 2.臨床への応用を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	臨床精神薬理ハンドブック 樋口輝彦、小山司、神庭重信編集 医学書院を読んでもくこと 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	うつ病の病態		1	
2	うつ病の生化学的解釈		2	
3	抗うつ薬の作用機序		3	
4	SSRI の臨床的使用方法		4	
5	SNRI の臨床的使用方法		5	
6	三環形抗うつ薬の臨床的使用方法		6	
7	認知行動療法		7	
8	口頭試問		8	
9			9	
10			10	
11			11	
12			12	
13			13	
14			14	
15			15	

講義担当者承認

㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(16)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(神経精神科学)	
講義題目	不安障害治療学		必修/選択	選択
担当教員	長田賢一	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	1 単位(通年第 2 水曜日)	履修年次	2 年	
テーマと目的	薬物療法、精神療法など不安障害の治療全般について			
講義計画	不安障害の治療についての知識を得、臨床への応用を検討する。			
達成目標	1. 不安障害治療について理解し説明できる。 2.臨床への応用を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	臨床精神薬理ハンドブック 樋口輝彦、小山司、神庭重信編集 医学書院を読んでもくこと 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	不安障害の病態	1		
2	不安障害の生化学的解釈	2		
3	抗不安薬の作用機序	3		
4	抗不安薬の臨床的使用方法-1	4		
5	抗不安薬の臨床的使用方法-2	5		
6	SSRI/SNRI の臨床的使用方法	6		
7	認知行動療法	7		
8	口頭試問	8		
9		9		
10		10		
11		11		
12		12		
13		13		
14		14		
15		15		

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(17)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(神経精神科学)		
講義題目	統合失調症治療学			必修/選択	選択
担当教員	古茶 大樹		担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	1 単位(通年第 3 木曜日)		履修年次	2 年	
テーマと目的	薬物療法、精神療法など統合失調症の治療全般について				
講義計画	統合失調症の治療についての知識を得、臨床への応用を検討する。				
達成目標	1. 統合失調症治療について理解し 説明できる。 2.臨床への応用を計画できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	統合失調症の病態		1		
2	統合失調症の生化学的解釈		2		
3	抗精神病薬の作用機序		3		
4	第 2 世代抗精神病薬の臨床的使用方法 1		4		
5	第 2 世代抗精神病薬の臨床的使用方法 2		5		
6	抗精神病薬の臨床的使用方法 1		6		
7	抗精神病薬の臨床的使用方法 2		7		
8	口頭試問		8		
9			9		
10			10		
11			11		
12			12		
13			13		
14			14		
15			15		

講義担当者承認 (印)

【54-4】平成30年度 大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	高度臨床医育成コース(画像診断学) (Training course for physicians with professional skills)
研究指導教員	三 村 秀 文
研究・教育の概略	放射線医学は進化した生体画像解析の最先端技術を診断、治療に応用し低侵襲医療を推進する分野である。大きく画像診断部門、画像ガイド下治療(IVR)、放射線治療3部門に分けられるがいずれもどの臓器を担当する臨床医にとって重要である。 画像診断部門は CT、MRI、超音波を中心とした最先端技術の臨床応用を産学協同で進めている。特に頻度の高い疾患を中心に脳神経診断部門、呼吸器診断部門、心臓循環器部門、乳腺部門、消化器部門、泌尿生殖器部門、骨軟部部門の画像診断を担当し、臓器を超えた救急画像診断部門、核医学部門、超音波部門を設けている。それぞれの疾患特量性を画像の面から解析するため種々のソフトウェアを利用している。また、医療経済における画像診断の役割の定量化などのテーマでも具体的に進めている。 いずれの分野も大学院生の参入を期待している領域であり実際の研究に当たっての必要な時間、研究費および国内外の留学など個々の研究テーマに応じて柔軟に対応する。
研究項目	1. 頻度の高い疾患の画像解析技術の研究 2. 種々の画像所見から見た疾患特異性の統計学的解析 3. 面検出器 CT の臨床応用 4. 最新 IVR の臨床応用 5. 最新画像解析ソフトの臨床的有用性の検証
準備学習(予習・復習)	下記参考 Textbook を適時読破し、学習、実習にそなえる。 •Fundamentals of Diagnostic Radiology. By William E. Brant and Clyde A. Helms. •Primer of Diagnostic Imaging. By Palph Weissleder.

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(画像診断学)	
講義題目	臨床呼吸器診断学特論(Ⅰ)		必修/選択	必修
担当教員	八木橋国博	担当教員連絡先	内線 3442	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1年	
テーマと目的	多様の呼吸器疾患の画像診断を理解する			
講義計画	週1回実施される Chest conference に呈示される on going の呼吸器疾患症例を通じて画像診断法と臨床情報の関連について学ぶ			
達成目標	臨床的に頻度の高い疾患の画像について分析し、理解し、他科の医療関係者に説明できるようにする			
教科書・参考書	High Resolution CT of the lung. By W. Richard Webb.			
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書を参考にして症例のプレチェック及び必要な症例を医局症例検討会で報告する 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	Case study 1		1	Case study 16
2	Case study 2		2	Case study 17
3	Case study 3		3	Case study 18
4	Case study 4		4	Case study 19
5	Case study 5		5	Case study 20
6	Case study 6		6	Case study 21
7	Case study 7		7	Case study 22
8	Case study 8		8	Case study 23
9	Case study 9		9	Case study 24
10	Case study 10		10	Case study 25
11	Case study 11		11	Case study 26
12	Case study 12		12	Case study 27
13	Case study 13		13	Case study 28
14	Case study 14		14	Case study 29
15	Case study 15		15	Case study 30

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(画像診断学)	
講義題目	臨床呼吸器診断学特論(Ⅱ)		必修/選択	必修
担当教員	松岡 伸	担当教員連絡先	内線 3442	
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	多様の呼吸器疾患の画像診断を理解する			
講義計画	週1回実施される Chest conference に呈示される on going の呼吸器疾患症例を通じて画像診断法と臨床情報の関連について学ぶ			
達成目標	臨床的に頻度の高い疾患の画像について分析し、理解し、他科の医療関係者に説明できるようにする			
教科書・参考書	Chest Radiology 6 edition. By James C. Reed.			
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書を参考にして症例のプレチェック及び必要な症例を医局症例検討会で報告する 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	Case study 1		1	
2	Case study 2		2	
3	Case study 3		3	
4	Case study 4		4	
5	Case study 5		5	
6	Case study 6		6	
7	Case study 7		7	
8	Case study 8		8	
9	Case study 9		9	
10	Case study 10		10	
11	Case study 11		11	
12	Case study 12		12	
13	Case study 13		13	
14	Case study 14		14	
15	Case study 15		15	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(画像診断学)	
講義題目	Interventional Radiology の基礎(Ⅰ)		必修/選択	必修
担当教員	三村秀文	担当教員連絡先	内線 3442	
単位数	2単位(前期1・後期 1)	履修年次	1年	
テーマと目的	血管系、非血管系疾患における経カテーテル的治療の理解			
講義計画	経カテーテル的治療手技、使用器具、適応条件、合併症について解説する			
達成目標	経カテーテル的治療の適応疾患、治療方法について理解し、概説できる			
教科書・参考書	・Radiology Case Review Series: Interventional Radiology. By Matthew D Tam.			
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書を参考にして症例のプレチェック及び必要な症例を医局症例検討会で報告する 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	IVR の基礎 1: 血管内治療	1	IVR の基礎: 症例検討	
2	IVR の基礎 2: 非血管内治療	2	IVR の基礎: 症例検討	
3	IVR の基礎 3: 救急疾患の IVR	3	IVR の基礎: 症例検討	
4	IVR の基礎 4: 使用機器	4	IVR の基礎: 症例検討	
5	IVR の基礎 5: 患者と術者の放射線被爆	5	IVR の基礎: 症例検討	
6	IVR の基礎 6: インフォームドコンセント	6	IVR の基礎: 症例検討	
7	IVR の基礎: 症例検討	7	IVR の基礎: 症例検討	
8	IVR の基礎: 症例検討	8	IVR の基礎: 症例検討	
9	IVR の基礎: 症例検討	9	IVR の基礎: 症例検討	
10	IVR の基礎: 症例検討	10	IVR の基礎: 症例検討	
11	IVR の基礎: 症例検討	11	IVR の基礎: 症例検討	
12	IVR の基礎: 症例検討	12	IVR の基礎: 症例検討	
13	IVR の基礎: 症例検討	13	IVR の基礎: 症例検討	
14	IVR の基礎: 症例検討	14	IVR の基礎: 症例検討	
15	IVR の基礎: 症例検討	15	IVR の基礎: 症例検討	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(画像診断学)	
講義題目	Interventional Radiology の基礎(Ⅱ)		必修/選択	必修
担当教員	濱口真吾	担当教員連絡先	内線 3442	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	血管系、非血管系疾患における経カテーテル的治療の理解			
講義計画	経カテーテル的治療手技、使用器具、適応条件、合併症について解説する			
達成目標	経カテーテル的治療の適応疾患、治療方法について理解し、概説できる			
教科書・参考書	・Radiology Case Review Series: Interventional Radiology. By Matthew D Tam.			
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書を読破し、学習、実習にそなえる 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	血管内治療の IVR		1	IVR の症例提示
2	IVR の症例提示		2	IVR の症例提示
3	IVR の症例提示		3	IVR の症例提示
4	IVR の症例提示		4	IVR の症例提示
5	IVR の症例提示		5	IVR の症例提示
6	IVR の症例提示		6	救急疾患の IVR
7	IVR の症例提示		7	IVR の症例提示
8	IVR の症例提示		8	IVR の症例提示
9	IVR の症例提示		9	IVR の症例提示
10	IVR の症例提示		10	IVR の症例提示
11	非血管内治療の IVR		11	IVR の症例提示
12	IVR の症例提示		12	IVR の症例提示
13	IVR の提示提示		13	IVR の症例提示
14	IVR の症例提示		14	IVR の症例提示
15	IVR の症例提示		15	IVR の症例提示

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(画像診断学)		
講義題目	断層撮影読影実習		必修/選択	必修	
担当教員	小林泰之	担当教員連絡先	内線 3442		
単位数	4単位(前期 2・後期 2)	履修年次	1年		
テーマと目的	CT・MRI 読影の基本技術、診断に導く方法を学ぶ				
講義計画	部位別に CT あるいは MRI 画像を読影し、担当教員指導の元、異常像の検出ポイント、所見から導かれる鑑別疾患を学習する				
達成目標	頭部・胸部・腹部 CT の異常所見を指摘し、診断に導くことができる。 頭部・胸部・腹部・骨軟部 MRI の異常所見を指摘し、診断に導くことができる。				
教科書・参考書	骨軟部疾患の画像診断 胸部の CT 腹部の CT 腹部の MRI (メディカル・サイエンス・インターナショナル) よくわかる脳 MRI				
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書を読破し、学習、実習にそなえる 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	頭部CT 1 基礎		1	頭部MRI 1 基礎 I	
2	頭部CT 2 応用		2	頭部MRI 2 基礎 II	
3	胸部CT 1 基礎		3	頭部MRI 3 応用 I	
4	胸部CT 2 応用 I		4	頭部MRI 4 応用 II	
5	胸部CT 3 応用 II		5	頭部MRI 5 応用 III	
6	胸部CT 4 応用 III		6	腹部MRI 6 基礎	
7	腹部CT 1 基礎		7	腹部MRI 1 肝	
8	腹部CT 2 応用 I		8	腹部MRI 2 MRCP	
9	腹部CT 3 応用 II		9	腹部MRI 3 その他	
10	腹部CT 4 応用 III		10	骨盤MRI 1 基礎	
11	骨盤CT 1 基礎		11	骨盤MRI 2 応用 I	
12	骨盤CT 2 応用 I		12	骨盤MRI 3 応用 II	
13	骨盤CT 3 応用 II		13	骨・関節MRI 1 基礎	
14	脊椎MRI 1 基礎		14	骨・関節MRI 2 応用 I	
15	脊椎MRI 2 応用		15	骨・関節MRI 3 応用 II	

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(画像診断学)	
講義題目	プレゼンテーション学概論(Ⅰ)		必修/選択	必修
担当教員	宮川国久	担当教員連絡先	内線 3442	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	科学的事象を他人に説明するために必要不可欠な技術を取得する			
講義計画	典型的な症例の画像診断のプレゼンテーション方法を解説する。 インターベンショナルラジオロジー症例の目的、手技の内容を解説する。 学会発表のプレゼンテーション作成法を解説する。			
達成目標	科学的事象を他人に説明するために効果的、正確なプレゼンテーションを行えるようになる。 パワーポイントスライド作成のために必要な技術を理解する。			
教科書・参考書	Diagnostic imaging series (Saunders)			
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書を参考にして症例のプレチェック及び必要な症例を医局症例検討会で報告する 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	症例呈示 脳神経 1		1	症例呈示 核医学 1
2	症例呈示 脳神経 2		2	症例呈示 核医学 2
3	症例呈示 脳神経 3		3	症例呈示 骨軟部 1
4	症例呈示 頭頸部 1		4	症例呈示 骨軟部 2
5	症例呈示 頭頸部 2		5	症例呈示 心血管 1
6	症例呈示 胸部 1		6	症例呈示 心血管 2
7	症例呈示 胸部 2		7	症例呈示 IVR 1
8	症例呈示 胸部 3		8	症例呈示 IVR 2
9	症例呈示 乳腺 1		9	症例呈示 IVR 3
10	症例呈示 乳腺 2		10	症例呈示 放射線治療 1
11	症例呈示 腹部 1		11	症例呈示 放射線治療 2
12	症例呈示 腹部 2		12	症例呈示 放射線治療 3
13	症例呈示 腹部 3		13	学会発表 1
14	症例呈示 骨盤部 1		14	学会発表 2
15	症例呈示 骨盤部 2		15	学会発表 3

講義担当者承認

㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(画像診断学)		
講義題目	プレゼンテーション学概論(Ⅱ)		必修/選択	必修	
担当教員	松岡 伸		担当教員連絡先	内線 3442	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)		履修年次	2年	
テーマと目的	科学的事象を他人に説明するために必要不可欠な技術を取得する				
講義計画	典型的な症例の画像診断のプレゼンテーション方法を解説する。 インターベンショナルラジオロジー症例の目的、手技の内容を解説する。 学会発表のプレゼンテーション作成法を解説する。				
達成目標	科学的事象を他人に説明するために効果的、正確なプレゼンテーションを行えるようになる。 パワーポイントスライド作成のために必要な技術を理解する。				
教科書・参考書	Diagnostic imaging series (Saunders)				
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書を参考にして症例のプレチェック及び必要な症例を医局症例検討会で報告する 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	症例呈示 脳神経 1		1	症例呈示 核医学 1	
2	症例呈示 脳神経 2		2	症例呈示 核医学 2	
3	症例呈示 脳神経 3		3	症例呈示 骨軟部 1	
4	症例呈示 頭頸部 1		4	症例呈示 骨軟部 2	
5	症例呈示 頭頸部 2		5	症例呈示 心血管 1	
6	症例呈示 胸部 1		6	症例呈示 心血管 2	
7	症例呈示 胸部 2		7	症例呈示 IVR 1	
8	症例呈示 胸部 3		8	症例呈示 IVR 2	
9	症例呈示 乳腺 1		9	症例呈示 IVR 3	
10	症例呈示 乳腺 2		10	症例呈示 放射線治療 1	
11	症例呈示 腹部 1		11	症例呈示 放射線治療 2	
12	症例呈示 腹部 2		12	症例呈示 放射線治療 3	
13	症例呈示 腹部 3		13	学会発表 1	
14	症例呈示 骨盤部 1		14	学会発表 2	
15	症例呈示 骨盤部 2		15	学会発表 3	

講義担当者承認

⑨

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(画像診断学)	
講義題目	胸部画像診断の基礎		必修/選択	必修
担当教員	中島康雄	担当教員連絡先	内線 3442	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	画像の成り立ちや人体発生・生理を理解することで、画像の理解度を深める。			
講義計画	1回1時間で、一つのテーマを理解し、出席者全員で実際の症例を検討する。			
達成目標	各々の分野の画像を一通り理解し、画像診断ができるようにする。			
教科書・参考書	Fundamentals of Diagnostic Radiology. By William E. Brant and Clyde A. Helms.			
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書を読破し、学習、実習にそなえる 1 時間			
成績評価法	実際の読影の際に各個人の理解度を評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	空気と軟部組織と石灰化と金属		1	スリガラス影の分布とその意義
2	胸部単純でのものの厚さと見え方		2	浸潤影と気管支壁肥厚
3	縦隔の構造と見え方		3	acinar shadow と結核
4	散乱線とものの見え方		4	娘気管支とマイコプラズマ肺炎
5	胸部単純と散乱線効果		5	Kerley lines と癌性リンパ管症
6	横隔膜の構造と見え方		6	石灰化を伴った肺腫瘍
7	吸気の種類と tenting (下肺間膜)		7	気腫性変化と蜂巣肺
8	年齢と吸気の種類と横隔膜の形		8	空洞病変とその特徴
9	シルエットサインと病変部位		9	胸部単純と心臓の拍動
10	無気肺と見え方		10	吸気の種類と心陰影の見え方
11	無気肺と胸水		11	体位による心陰影・縦隔影の変化
12	肺の構造と機能		12	vascular pedicle とその意義
13	経気道性病変のCT画像		13	胸水の量と見え方
14	間質病変とCT画像-その1-		14	肺うっ血と胸部単純所見-その1-
15	間質病変とCT画像-その2-		15	肺うっ血と胸部単純所見-その2-

講義担当者承認 ⑨

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(画像診断学)	
講義題目	乳腺内分泌学 画像診断特論		必修/選択	必修
担当教員	中島康雄	担当教員連絡先	内線 3442	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1年	
テーマと目的	乳がんの臨床の実際を学習し画像診断研究の方向性を理解する			
講義計画	1) 乳腺内分泌外科にて扱っている症例の画像診断を解説する 2) 画像診断の臨床的意義と最先端の画像診断の知見を解説する			
達成目標	乳がんの診療における画像診断の役割について理解し個々の症例の画像診断について解説できる。			
教科書・参考書	乳腺 MRI 実践ガイド 著者・戸崎光宏 文光堂			
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書を読破し、学習、実習にそなえる 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席@)	後期(回)	内 容 (出席@)	
1	乳腺疾患の画像診断の基礎 1	1	乳癌スクリーニングの画像診断 1	
2	乳腺疾患の画像診断の基礎 2	2	乳癌スクリーニングの画像診断 2	
3	乳腺疾患の画像診断の基礎 3	3	乳癌スクリーニングの画像診断 3	
4	乳腺疾患の画像診断の基礎 4	4	乳癌の切除範囲決定における画像診断 1	
5	乳腺疾患の画像診断特論 1	5	乳癌の切除範囲決定における画像診断 2	
6	乳腺疾患の画像診断特論 2	6	乳癌の切除範囲決定における画像診断 3	
7	乳腺疾患の画像診断特論 3	7	乳癌の切除範囲決定における画像診断 4	
8	乳腺疾患の画像診断特論 4	8	乳癌の非手術治療の経過観察における画像診断 1	
9	乳腺疾患の画像診断特論 5	9	乳癌の非手術治療の経過観察における画像診断 2	
10	乳腺の病理と画像診断 1	10	乳癌の非手術治療の経過観察における画像診断 3	
11	乳腺の病理と画像診断 2	11	乳癌の非手術治療の経過観察における画像診断 4	
12	乳腺の病理と画像診断 3	12	乳癌の IVR 治療 1	
13	乳腺の病理と画像診断 4	13	乳癌の IVR 治療 2	
14	乳腺の病理と画像診断 5	14	乳癌の IVR 治療 3	
15	乳腺の病理と画像診断 6	15	乳癌の IVR 治療 4	

講義担当者承認

㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(画像診断学)	
講義題目	放射線治療学		必修/選択	必修
担当教員	阿部達之	担当教員連絡先	内線 3442	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1年	
テーマと目的	放射線治療の原理と適応疾患に対する最適な治療計画の理解			
講義計画	実際の症例を用い治療計画の実際を経験する。			
達成目標	1 放射線治療の原理と適応疾患に対する最適対処法を理解する。 2 将来、臨床の場で放射線治療適応疾患を見逃さずに治療施設へ紹介できる。			
教科書・参考書	放射線治療グリーンマニュアル 金原出版 放射線治療計画ガイドライン2012			
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書を読破し、学習、実習にそなえる 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	放射線腫瘍学 総論 物理 1		1	症例を用いた治療計画実習
2	放射線腫瘍学 総論 物理 2		2	症例を用いた治療計画実習
3	放射線腫瘍学 総論 物理 3		3	症例を用いた治療計画実習
4	放射線腫瘍学 総論 生物 1		4	症例を用いた治療計画実習
5	放射線腫瘍学 総論 生物 2		5	症例を用いた治療計画実習
6	放射線腫瘍学 総論 生物 3		6	症例を用いた治療計画実習
7	放射線腫瘍学 総論 治療計画機器		7	症例を用いた治療計画実習
8	放射線腫瘍学 総論 治療機器		8	症例を用いた治療計画実習
9	放射線腫瘍学 総論 適応と選択		9	症例を用いた治療計画実習
10	放射線腫瘍学 総論 適応と選択		10	症例を用いた治療計画実習
11	放射線腫瘍学 各論 頭頸部		11	症例を用いた治療計画実習
12	放射線腫瘍学 各論 肺		12	症例を用いた治療計画実習
13	放射線腫瘍学 各論 婦人科疾患		13	症例を用いた治療計画実習
14	放射線腫瘍学 各論 泌尿器科疾患		14	症例を用いた治療計画実習
15	放射線腫瘍学 各論 消化器疾患		15	総合討論

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(画像診断学)	
講義題目	画像診断 case study		必修/選択	選択
担当教員	松岡 伸	担当教員連絡先	内線 3442	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	様々な疾患の画像診断の基本を学ぶ			
講義計画	各週に見られた興味深い症例の画像を review する			
達成目標	画像診断の考え方を学ぶ			
教科書・参考書	Paul and Juhl's Essentials of Radiologic Imaging Lippin Cott Williams & Wilkins 1998			
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書を読破し、学習、実習にそなえる 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席@)	後期(回)	内 容 (出席@)
1	Case study 1		1	Case study 16
2	Case study 2		2	Case study 17
3	Case study 3		3	Case study 18
4	Case study 4		4	Case study 19
5	Case study 5		5	Case study 20
6	Case study 6		6	Case study 21
7	Case study 7		7	Case study 22
8	Case study 8		8	Case study 23
9	Case study 9		9	Case study 24
10	Case study 10		10	Case study 25
11	Case study 11		11	Case study 26
12	Case study 12		12	Case study 27
13	Case study 13		13	Case study 28
14	Case study 14		14	Case study 29
15	Case study 15		15	Case study 30

講義担当者承認

㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(画像診断学)	
講義題目	Interventional Radiology の応用		必修/選択	選択
担当教員	山田隆之	担当教員連絡先	内線 3442	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	血管系、非血管系疾患における経カテーテル的治療の理解			
講義計画	経カテーテル的治療手技、使用器具、適応条件、合併症について解説する			
達成目標	経カテーテル的治療を応用し、他治療との併用、集学治療について理解する			
教科書・参考書	Abrams's Angiography: Interventional Radiology.3 rd ed.			
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書を参考にして症例のプレチェック及び必要な症例を医局症例検討会で報告する 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	IVR の応用1:血管内治療	1	IVR の応用:症例検討	
2	IVR の応用2:非血管内治療	2	IVR の応用:症例検討	
3	IVR の応用3:救急疾患の IVR	3	IVR の応用:症例検討	
4	IVR の応用4:使用機器	4	IVR の応用:症例検討	
5	IVR の応用5:患者と術者の放射線被曝	5	IVR の応用:症例検討	
6	IVR の応用6:インフォームドコンセント	6	IVR の応用:症例検討	
7	IVR の応用:症例検討	7	IVR の応用:症例検討	
8	IVR の応用:症例検討	8	IVR の応用:症例検討	
9	IVR の応用:症例検討	9	IVR の応用:症例検討	
10	IVR の応用:症例検討	10	IVR の応用:症例検討	
11	IVR の応用:症例検討	11	IVR の応用:症例検討	
12	IVR の応用:症例検討	12	IVR の応用:症例検討	
13	IVR の応用:症例検討	13	IVR の応用:症例検討	
14	IVR の応用:症例検討	14	IVR の応用:症例検討	
15	IVR の応用:症例検討	15	IVR の応用:症例検討	

講義担当者承認

⑨

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(画像診断学)	
講義題目	高精度放射線治療		必修/選択	選択
担当教員	五味弘道	担当教員連絡先	内線 3442	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	高精度放射線治療の概略			
講義計画	講義により意義、原理、適応疾患について知る。実際の症例で治療計画の実際を経験する			
達成目標	高精度放射線治療の適応疾患を理解する 高精度放射線治療の原理と実際を理解する			
教科書・参考書	体幹部定位放射線治療-ガイドラインの詳細と照射マニュアルー 中外医学社			
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書を読破し、学習、実習にそなえる 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	高精度放射線治療 総論 講義	1	症例を用いた治療計画実習	
2	高精度放射線治療 総論 講義	2	症例を用いた治療計画実習	
3	高精度放射線治療 総論 講義	3	症例を用いた治療計画実習	
4	高精度放射線治療 総論 講義	4	症例を用いた治療計画実習	
5	高精度放射線治療 総論 講義	5	症例を用いた治療計画実習	
6	高精度放射線治療 総論 講義	6	症例を用いた治療計画実習	
7	高精度放射線治療 総論 講義	7	症例を用いた治療計画実習	
8	高精度放射線治療 各論 講義	8	症例を用いた治療計画実習	
9	高精度放射線治療 各論 講義	9	症例を用いた治療計画実習	
10	高精度放射線治療 各論 講義	10	症例を用いた治療計画実習	
11	高精度放射線治療 各論 講義	11	症例を用いた治療計画実習	
12	高精度放射線治療 各論 講義	12	症例を用いた治療計画実習	
13	高精度放射線治療 各論 講義	13	症例を用いた治療計画実習	
14	高精度放射線治療 各論 講義	14	症例を用いた治療計画実習	
15	高精度放射線治療 各論 講義	15	総合討論	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(画像診断学)	
講義題目	頭部・頭頸部の画像診断		必修/選択	選択
担当教員	中村尚生	担当教員連絡先	内線 3442	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	診断に必要な解剖の知識、正常像と疾患の典型像を理解する			
講義計画	正常を知り、異常の検出法			
達成目標	適格に異常所見を指摘し、総合的に診断をつける			
教科書・参考書	よくわかる脳MRI Diagnostic Imaging: Brain 頭頸部のCT・MRI Diagnostic Imaging:Head and neck			
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書を参考にして症例のプレチェック及び必要な症例を医局症例検討会で報告する 1時間			
成績評価法	出席と講義中の発言、積極性、態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	MRIの撮像・sequence	1	聴器の解剖(1)外・中耳	
2	正常解剖(脳)	2	聴器の解剖(2)内耳	
3	正常解剖(脳神経)	3	聴器の奇形	
4	奇形(1)	4	聴器の炎症	
5	奇形(2)	5	聴器の外傷・腫瘍	
6	炎症性疾患	6	大唾液腺の解剖と疾患	
7	代謝・内分泌疾患	7	副鼻腔の解剖・炎症	
8	脱髄・変性疾患(1)	8	副鼻腔の腫瘍	
9	脱髄・変性疾患(2)	9	咽頭・周囲間隙の解剖	
10	外傷	10	咽頭・周囲間隙の炎症	
11	腫瘍性病変(1)	11	咽頭・周囲間隙の腫瘍	
12	腫瘍性病変(2)	12	咽頭の解剖・腫瘍	
13	腫瘍性病変(3)	13	眼窩の解剖・外傷	
14	血管性病変	14	眼窩の炎症・腫瘍	
15	総合	15	総合	

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(15)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(画像診断学)	
講義題目	骨軟部画像診断の基礎		必修/選択	選択
担当教員	橘川 薫	担当教員連絡先	内線 3442	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	骨軟部画像診断に必要な知識を取得する			
講義計画	単純X線写真、CT、MRIにおける画像解剖を解説する 典型的な症例の画像所見を解説する			
達成目標	各種画像診断法における正常像が理解できる 典型的な疾患の画像診断が行える			
教科書・参考書	Diagnosis of bone and joint disorders 4 th ed.(resnick)			
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書を参考にして症例のプレチェック及び必要な症例を医局症例検討会で報告する 1時間			
成績評価法	出席、受講態度、積極性による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	画像解剖 脊椎1		1	炎症 関節リウマチ1
2	画像解剖 脊椎2		2	炎症 関節リウマチ2
3	画像解剖 脊椎3		3	炎症 関節リウマチ3
4	画像解剖 肩関節		4	炎症 膠原病(リウマチ以外) 1
5	画像解剖 肘・手関節		5	炎症 膠原病(リウマチ以外) 2
6	画像解剖 股・膝関節		6	炎症 感染症1
7	画像解剖 足関節、筋肉		7	炎症 感染症2
8	外傷 脊椎 1		8	変性疾患 脊椎1
9	外傷 脊椎 2		9	変性疾患 脊椎2
10	外傷 肩関節		10	変性疾患 脊椎3
11	外傷 肘・手関節		11	変性疾患 股関節
12	外傷 股関節		12	変性疾患 膝関節
13	外傷 膝関節1		13	腫瘍 原発性腫瘍1
14	外傷 膝関節2		14	腫瘍 原発性腫瘍2
15	外傷 足関節		15	腫瘍 転移性腫瘍

講義担当者承認

⑨

【54-5】平成30年度 大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	高度臨床医育成コース(外科学) (Training course for physicians with professional skills)
研究指導教員	北川 博昭 大坪 毅人 宮入 剛 津川 浩 一郎 平 泰彦
研究 ・ 教育 の 概 略	【教育目標】 医の倫理を体得し、医療を適正に実践すべく一定の修練を経て、診断、手術および術前後の管理・処置・ケアなど一般外科医療に関する標準的な知識と技量を身につけることを目標とする。 【取得専門医】 外科学会専門医 【ローテーション】 大学院 1 年目、2 年目： 3ヶ月を1クールとして、心臓血管外科、乳腺内分泌外科、小児外科、呼吸器外科、救急医学をそれぞれ1クール、消化器一般外科 3 クールローテーションする。それぞれの3ヶ月間で講義2単位、実習1単位を受講する。また、外科専門医取得に必要な手術経験をつむ。 ただし、大学院入学時にすでに外科学会専門医取得のための十分な経験のあるものに対しては、当該診療科のローテーションを免除し、別途プログラムを用意する。 大学院 3 年目、4 年目： 各人の希望する部門において、さらなる知識及び技量の習得に努め、外科学会専門医取得を目指すとともに、サブスペシャリティ専門医の取得を目指す。また、基礎的あるいは臨床的な研究を行い、学位取得をめざす。
研究 項 目	1. 上部・下部消化管、肝胆膵、各臓器の外科手術手技を習得する。 2. がん治療の最前線、終末期医療、疼痛コントロールを理解する。 3. 術前、術後の栄養管理、SSI 全般にわたる最新の EBM を学習する。 4. 心臓外科では開心術における補助循環の原理と実践を習得する。 5. 呼吸器外科では呼吸器循環の病態生理を習得する。 6. 小児外科、乳腺・内分泌外科では、それぞれの基本的な診断学を理解する。 7. 救急・集中治療領域からは、外傷はじめ手術も生体侵襲であり、これに対する生体防御反応である炎症について学ぶ。炎症反応は本来生体防御機構であり、この平衡の乱れが生体にさらなる侵襲を与え、重症化させる要因となる。
準備学習(予習・復習)	標準外科学、がん疼痛緩和ケア Q&A、心臓血管外科管理ハンドブック、呼吸器外科学、系統小児外科学、乳がん診断ガイドラインなどを参照し、参考資料に目を通し、講義後は配布資料で復習をおこなう。

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(1)

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)		
講義題目	消化器・一般外科クリニカルラーニング I		必修/選択	必修	
担当教員	大坪毅人	担当教員連絡先	内線 3213		
単位数	2 単位(3ヶ月・7、8、9 月)	履修年次	1年・2 年		
テーマと目的	主に消化器一般外科の症例を検討し、画像診断、治療方針、手術等について学習する。				
講義計画	各種消化器一般外科の臨床画像診断、治療法を解説する。				
達成目標	各種消化器一般外科疾患に関して、特に消化器悪性疾患の診療ガイドラインに沿ったEBM を習熟する。				
教科書・参考書	標準外科学(医学書院、2016、第 14 版)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席㊟)	後期(回)	内 容	(出席㊟)
1	消化器一般外科診断学総論		1		
2	腹壁外科(1)		2		
3	腹壁外科(2)		3		
4	上部消化管疾患診断学総論		4		
5	上部消化管疾患診断学各論(1)		5		
6	上部消化管疾患診断学各論(2)		6		
7	食道癌外科治療学(1)		7		
8	食道癌外科治療学(2)		8		
9	胃癌外科治療学各論(1)		9		
10	胃癌外科治療学各論(2)		10		
11	消化器一般外科診断学・治療学総括		11		
12	試験、評価		12		
13			13		
14			14		
15			15		

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(2)

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)		
講義題目	消化器・一般外科クリニカルラーニングⅡ		必修/選択	必修	
担当教員	大坪毅人	担当教員連絡先	内線 3213		
単位数	2 単位(3ヶ月・10、11、12 月)	履修年次	1 年・2 年		
テーマと目的	主に消化器一般外科の症例を検討し、画像診断、治療方針、手術等について学習する。				
講義計画	各種消化器一般外科の臨床画像診断、治療法を解説する。				
達成目標	各種消化器一般外科疾患に関して、特に消化器悪性疾患の診療ガイドラインに沿ったEBMを習熟する。				
教科書・参考書	標準外科学(医学書院、2016、第 14 版)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席㊟)	後期(回)	内 容	(出席㊟)
1	消化管外科診断学総論		1		
2	下部消化管疾患診断学総論		2		
3	下部消化管疾患診断学各論(1)		3		
4	下部消化管疾患診断学各論(2)		4		
5	下部消化管疾患外科治療学総論		5		
6	下部消化管疾患外科治療学(1)		6		
7	下部消化管疾患外科治療学(2)		7		
8	後腹膜臓器疾患診断学総論		8		
9	後腹膜臓器疾患診断学各論		9		
10	後腹膜臓器疾患外科治療学各論		10		
11	脾疾患治療学		11		
12	試験、評価		12		
13			13		
14			14		
15			15		

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(3)

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)		
講義題目	消化器・一般外科クリニカルラーニングⅢ		必修/選択	必修	
担当教員	大坪毅人	担当教員連絡先	内線 3213		
単位数	2 単位(3ヶ月・1、2、3 月)	履修年次	1年・2 年		
テーマと目的	主に消化器一般外科の症例を検討し、画像診断、治療方針、手術等について学習する。				
講義計画	各種消化器一般外科の臨床画像診断、治療法を解説する。				
達成目標	各種消化器一般外科疾患に関して、特に消化器悪性疾患の診療ガイドラインに沿ったEBMを習熟する。				
教科書・参考書	標準外科学(医学書院、2016、第 14 版)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席㊟)	後期(回)	内 容	(出席㊟)
1	肝疾患診断学(1)		1		
2	肝疾患診断学(2)		2		
3	肝疾患外科治療学(1)		3		
4	肝疾患外科治療学(2)		4		
5	胆道疾患診断学		5		
6	胆道疾患外科治療学(1)		6		
7	胆道疾患外科治療学(2)		7		
8	膵疾患診断学		8		
9	膵疾患外科治療学(1)		9		
10	膵疾患外科治療学(2)		10		
11	消化器外科診断治療学総括		11		
12	試験、評価		12		
13			13		
14			14		
15			15		

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(4)

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)	
講義題目	消化器・一般外科 手術スキル実習 (1)		必修/選択	必修
担当教員	大坪毅人	担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	1単位(3ヶ月・7、8、9月)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	消化器一般外科手術の専門手術手技を実習する。			
講義計画	専門講師による手術手技実習指導。			
達成目標	上部消化管・一般外科解剖の理解と低難度から高難度の手術手技理解。			
教科書・参考書	標準外科学(医学書院、2016、第14版)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席と最終実技試験			
講 義 内 容				
前後期(回)	内 容	(出席⑩)		内 容
1	腹壁外科手術手技実習	1		
2	食道癌手術手技ビデオ研修	2		
3	開胸開腹食道癌手術手技実習(1)	3		
4	開胸開腹食道癌手術手技実習(2)	4		
5	胃癌幽門側胃切除手術ビデオ研修	5		
6	胃癌胃全摘術ビデオ研修	6		
7	胃癌手術手技スキル実習(1)	7		
8	胃癌手術手技スキル実習(2)	8		
9	腹腔鏡補助下胃癌手術ビデオ研修	9		
10	腹腔鏡補助下幽門側胃切除術手術実習	10		
11	手術手技総括	11		
12	試験、評価	12		
13		13		
14		14		
15		15		

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(5)

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)	
講義題目	消化器・一般外科 手術スキル実習 (2)		必修/選択	必修
担当教員	大坪毅人	担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	1単位(3ヶ月・10、11、12 月)	履修年次	1年・2 年	
テーマと目的	下部消化管外科、脾臓・後腹膜臓器の専門手術手技を実習する。			
講義計画	専門講師による手術手技実習指導。			
達成目標	下部消化管外科解剖の理解と低難度から高難度の手術手技理解。			
教科書・参考書	大腸外科の最前線(永井書店)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席と最終実技試験			
講 義 内 容				
前後期(回)	内 容 (出席◎)			内 容
1	結腸癌切除術手術手技ビデオ研修		1	
2	直腸癌切除術手術手技ビデオ研修		2	
3	右結腸切除術手術手技実習		3	
4	横行結腸切除術手術手技実習		4	
5	左結腸切除術手術手技実習		5	
6	S 状結腸切除術手術手技実習		6	
7	高位前方切除術手術手技実習		7	
8	低位前方切除術手術手技実習		8	
9	直腸切断術手術手技実習		9	
10	後腹膜臓器手術手技実習		10	
11	手術手技総括		11	
12	試験、評価		12	
13			13	
14			14	
15			15	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(6)

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)	
講義題目	消化器・一般外科 手術スキル実習 (3)		必修/選択	必修
担当教員	大坪毅人	担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	1単位(3ヶ月・1、2、3月)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	肝胆膵外科手術の専門手術手技を実習する。			
講義計画	専門講師による手術手技実習指導。			
達成目標	肝胆膵外科解剖の理解と低難度から高難度の肝胆膵外科手術手技の理解。			
教科書・参考書	肝臓外科、胆道外科、膵外科の要点と盲点(文光堂)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席と最終実技試験			
講 義 内 容				
前後期(回)	内 容 (出席◎)		内 容	
1	肝切除手術手技ビデオ研修	1		
2	胆道手術手術手技ビデオ研修	2		
3	膵手術手術手技ビデオ研修	3		
4	腹腔鏡下胆嚢摘出術手術手技実習(1)	4		
5	腹腔鏡下胆嚢摘出術手術手技実習(2)	5		
6	肝癌肝亜区域、区域切除手術手技実習	6		
7	肝癌肝葉切除手術手技実習	7		
8	胆管癌拡大葉切除手術手技実習	8		
9	膵頭十二指腸切除手技実習(1)	9		
10	膵頭十二指腸切除手技実習(2)	10		
11	手術手技総括	11		
12	試験、評価	12		
13		13		
14		14		
15		15		

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)	
講義題目	心臓血管外科クリニカルラーニング		必修/選択	必修
担当教員	宮入 剛	担当教員連絡先	内線 3230	
単位数	2単位(3ヶ月・10、11、12 月)	履修年次	1年・2 年	
テーマと目的	心臓血管外科の手術症例を中心に検討を行い、病態、画像診断、手術適応、治療方針、術前術後管理などについて学習する。			
講義計画	心臓血管外科疾患の病態、画像診断、治療法に関して解説する。			
達成目標	心臓血管外科疾患の病態を理解し、適切な画像診断を選択して読影できるようになる。 さらに、治療方針、手術適応、術前術後管理を習得する。			
教科書・参考書	心疾患の診断と手術(改訂第5版) 新井達太 著 心臓血管外科手術のための解剖学 MEDICAL VIEW			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書等を参考に学習を行う。 1時間			
成績評価法	出席と最終試験			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	心臓血管外科診断学総論		1	
2	虚血性心疾患診断学各論		2	
3	虚血性心疾患病態学各論		3	
4	虚血性心疾患治療学各論(1)		4	
5	虚血性心疾患治療学各論(2)		5	
6	虚血性心疾患治療学各論(3)		6	
7	弁膜症疾患診断学各論		7	
8	弁膜症疾患病態学各論		8	
9	先天性心疾患診断学各論		9	
10	胸部大動脈疾患診断学各論		10	
11	腹部大動脈疾患診断学各論		11	
12	閉塞性動脈硬化症診断学各論		12	
13			13	
14			14	
15			15	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)	
講義題目	心臓血管外科手術スキル実習		必修/選択	必修
担当教員	宮入 剛	担当教員連絡先	内線 3230	
単位数	1 単位(3ヶ月・10、11、12 月)	履修年次	1年・2 年	
テーマと目的	心臓血管外科の専門手術手技を実習する。			
講義計画	手術書、ビデオによる手術手技の解説とシミュレーターを用いた手術手技の実習。			
達成目標	まず、心臓血管外科の基本的手術手技を熟知する。その後、各疾患の特殊な手術主義に関して習得する。			
教科書・参考書	心疾患の診断と手術(改訂第5版) 新井達太 著 心臓血管外科手術のための解剖学 MEDICAL VIEW			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書等を参考に学習を行う。 1時間			
成績評価法	出席と最終実技試験			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	心臓到達法(1)		1	
2	心臓到達法(2)		2	
3	心臓到達法(3)		3	
4	心臓到達法(4)		4	
5	開胸法(1)		5	
6	開胸法(2)		6	
7	開胸法(3)		7	
8	開胸法(4)		8	
9	人工心肺装着術(1)		9	
10	人工心肺装着術(2)		10	
11	人工心肺装着術(3)		11	
12	人工心肺装着術(4)		12	
13			13	
14			14	
15			15	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)	
講義題目	呼吸器外科クリニカルラーニング		必修/選択	必修
担当教員	佐治 久	担当教員連絡先	内線 3336	
単位数	2単位(3ヶ月・1、2、3月)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	呼吸器外科の手術症例を中心に検討を行い、病態、画像診断、手術適応、治療方針、術前術後管理などについて学習する。			
講義計画	呼吸器外科疾患の病態、画像診断、治療法に関して解説する。			
達成目標	呼吸器外科疾患の病態を理解し、適切な画像診断を選択して読影できるようになる。さらに、治療方針、手術適応、術前術後管理を習得する。			
教科書・参考書	呼吸器外科学（改訂4版、南山堂）			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書の指定する範囲をあらかじめ予習し、講義後は自宅で復習する。 1時間			
成績評価法	出席と最終試験			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	呼吸器外科診断学総論		1	
2	呼吸器外科疾患診断学各論(1)		2	
3	呼吸器外科疾患診断学各論(2)		3	
4	呼吸器外科疾患診断学各論(3)		4	
5	呼吸器外科疾患診断学各論(4)		5	
6	呼吸器外科疾患治療学総論		6	
7	呼吸器外科疾患治療学各論(1)		7	
8	呼吸器外科疾患治療学各論(2)		8	
9	呼吸器外科疾患治療学各論(3)		9	
10	呼吸器外科疾患治療学各論(4)		10	
11	呼吸器外科疾患治療学各論(5)		11	
12	試験、評価		12	
13			13	
14			14	
15			15	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)		
講義題目	呼吸器外科手術スキル実習		必修/選択	必修	
担当教員	佐治 久	担当教員連絡先	内線 3336		
単位数	1 単位(3ヶ月・1、2、3月)	履修年次	1年・2 年		
テーマと目的	呼吸器外科の専門手術手技を実習する。				
講義計画	専門講師による手術手技実習指導。				
達成目標	呼吸器外科の基本的手術手技と各疾患の特殊な手術手技の習得。				
教科書・参考書	呼吸器外科学 (改訂 4 版、南山堂)				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書の指定する範囲をあらかじめ予習し、講義後は自宅で復習する。 1時間				
成績評価法	出席と最終実技試験				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	呼吸器外科手術手技実習(1)		1		
2	呼吸器外科手術手技実習(2)		2		
3	自然気胸手術手技ビデオ研修		3		
4	開胸下自然気胸手術手技実習		4		
5	胸腔鏡下自然気胸手術手技実習		5		
6	肺癌手術手技ビデオ研修		6		
7	肺癌手術手技研修(1)		7		
8	肺癌手術手技研修(2)		8		
9	肺癌手術手技研修(3)		9		
10	縦隔腫瘍手術手技研修		10		
11	手術手技総括		11		
12	試験、評価		12		
13			13		
14			14		
15			15		

講義担当者承認

⑨

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(11)

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)	
講義題目	小児外科クリニカルラーニング		必修/選択	必修
担当教員	北川博昭	担当教員連絡先	3222	
単位数	2 単位(3ヶ月・4、5、6 月)	履修年次	1 年・2年	
テーマと目的	小児外科疾患に対する症例検討を中心に、画像診断、手術適応、治療方針についてプレゼンテーションできることを目的とする。			
講義計画	実際の臨床例を基に、小児外科特有な疾患の臨床像から鑑別疾患をあげ、実際に、その治療計画を立てる。また、臨床症例のプレゼンテーションができるようにする。			
達成目標	小児外科特有の疾患の中で、特に新生児疾患の画像、手術適応を含めた治療方針が立てられるようにする。			
教科書・参考書	最新外科学(医学出版社)、コメディカルのための外科学(医学出版社) 胎児外科(日本評論社)			
準備学習(予習・復習・時間)	小児の腹部触診や発達について学び、幼児の診察ができるよう学習する。 1時間			
成績評価法	出席と最終試験			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	胎児診断と発生(1)	1		
2	腎・尿路の発生(1)	2		
3	消化管の発生(1)	3		
4	新生児の消化管奇形基本手術(1)	4		
5	新生児の消化管奇形基本手術(2)	5		
6	小児癌の外科手術手技(1)	6		
7	小児癌の外科手術手技(2)	7		
8	小児腹痛疾患の診断(1)	8		
9	小児腹痛疾患の診断(2)	9		
10	胎児外科手術の基本(1)	10		
11	胎児外科手術の基本(2)	11		
12	胎児外科手術の基本(3)	12		
13		13		
14		14		
15		15		

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(12)

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)	
講義題目	小児外科手術スキル実習		必修/選択	必修
担当教員	北川博昭	担当教員連絡先	3222	
単位数	1 単位(3ヶ月・4、5、6 月)	履修年次	1 年・2年	
テーマと目的	小児特有の手術のビデオ研修			
講義計画	1. ビデオライブラリーから借用した小児外科疾患の手術ビデオ供覧 2. 小児腹腔鏡手術手技の基礎			
達成目標	小児外科特有の疾患の手術方法の理解			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	縫合や糸結びができるようにする。 1時間			
成績評価法	出席と最終試験			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席@)	後期(回)	内 容 (出席@)	
1	頭頸部疾患の手術(1)	1		
2	頭頸部疾患の手術(2)	2		
3	新生児手術の基本(1)	3		
4	新生児手術の基本(2)	4		
5	肝胆道の手術(1)	5		
6	肝胆道の手術(2)	6		
7	直腸。肛門疾患(1)	7		
8	直腸。肛門疾患(2)	8		
9	小児鏡視下手術の基本(1)	9		
10	小児鏡視下手術の基本(2)	10		
11	小児鏡視下手術の応用(1)	11		
12	小児鏡視下手術の応用(2)	12		
13		13		
14		14		
15		15		

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)	
講義題目	乳腺内分泌外科クリニカルラーニング		必修/選択	必修
担当教員	津川浩一郎	担当教員連絡先	内線 3222	
単位数	2単位(3ヶ月・7、8、9月)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患の診療を理解する			
講義計画	種々の基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺症例を通して診断学を理解し、管理方法を検討する。			
達成目標	1. 基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺の診断について、論理的に説明できる 2. 基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺の診断に基づいた治療計画を策定できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	Up To Date(学内からオンラインにて検索可能)を参照 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	乳腺・甲状腺の解剖		1	
2	ホルモンと乳腺の関連		2	
3	乳癌の疫学		3	
4	乳腺・甲状腺疾患の視触診		4	
5	乳腺疾患の画像診断		5	
6	甲状腺・副甲状腺疾患の画像診断		6	
7	転移性乳癌の画像診断		7	
8	乳腺疾患の組織診断		8	
9	甲状腺・副甲状腺疾患の組織診断		9	
10	良性乳腺疾患の外科治療		10	
11	乳癌の外科治療		11	
12	甲状腺・副甲状腺疾患の外科治療		12	
13			13	
14			14	
15			15	

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)	
講義題目	乳腺内分泌外科手術スキル実習		必修/選択	必修
担当教員	津川浩一郎	担当教員連絡先	内線 3222	
単位数	1単位(3ヶ月・7、8、9月)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患の外科療法を理解する			
講義計画	種々の基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺症例を通して外科療法を理解し、管理方法を検討する。			
達成目標	1. 基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患について、外科療法を論理的に説明できる 2. 基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患の組織診断と外科手技を行うことができる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	Up To Date(学内からオンラインにて検索可能)を参照 1時間			
成績評価法	出席と実習内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	乳腺疾患の穿刺細胞診		1	
2	乳腺疾患の針生検		2	
3	乳腺疾患のマンモトーム生検		3	
4	乳腺疾患の外科生検		4	
5	良性乳腺疾患の手術(1)		5	
6	良性乳腺疾患の手術(2)		6	
7	乳癌の手術-乳房温存術(1)		7	
8	乳癌の手術-乳房温存術(2)		8	
9	乳癌の手術-乳房切除術(1)		9	
10	乳癌の手術-乳房切除術(2)		10	
11	乳癌のリンパ節郭清		11	
12	甲状腺良性腫瘍の手術		12	
13			13	
14			14	
15			15	

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(15)

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)	
講義題目	疼痛コントロール		必修/選択	選択
担当教員	月川 賢	担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	1単位(前期1)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	疼痛緩和ケアの臨床。			
講義計画	疼痛ケアに関する臨床基礎知識の学習と疼痛ケア回診とカンファレンス、そして、学内外講師による講義。			
達成目標	疼痛ケアの EBM を学習し習熟する。			
教科書・参考書	がん疼痛緩和ケア Q&A—効果的な薬物治療・QOL の向上をめざして(じほう出版)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席、総合討論、発表			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容
1	がん疼痛緩和ケア概論		1	
2	末期がん医療の実際		2	
3	WHO 方式がん疼痛治療法		3	
4	がん患者の治療に伴う副作用の軽減と症状コントロール		4	
5	疼痛患者の精神的サポート		5	
6	がん告知における医療サポート		6	
7	疼痛緩和と消炎鎮痛剤		7	
8	疼痛緩和におけるオピオイド製剤の役割		8	
9	疼痛緩和におけるオピオイド製剤の適正使用法		9	
10	疼痛緩和における地域医療連携室の役割		10	
11	在宅・緩和病棟の役割とホスピスへのコーディネート		11	
12	疼痛に伴う精神症状の臨床		12	
13	オピオイド製剤の副作用対策		13	
14	がん疼痛緩和ケア総括		14	
15	発表、討論、評価		15	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(16)

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)	
講義題目	Nutrition Support クリニカルラーニング		必修/選択	選択
担当教員	民上真也	担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	1単位(前期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	Nutrition support の最新の EBM の学習。			
講義計画	Nutrition support team の回診と学内外の専門講師による講義。			
達成目標	Nutrition support の最新知見を習熟し、臨床にて実践できることを目標とする。			
教科書・参考書	標準外科学(医学書院)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席、講義内での発表の評価、試験			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容
1	Nutrition support 総論		1	
2	褥瘡治療・予防における NST 活動とその効果		2	
3	周術期管理における NST 活動		3	
4	身体機能回復に対する NST 活動の有用性		4	
5	救急医療と NST		5	
6	Intensive insulin therapy “IIT”の臨床成績		6	
7	Immunonutrients の作用機序、臨床効果		7	
8	栄養ケアにおけるベッドサイドのモニタリング		8	
9	静脈・経腸栄養法のモニタリングのポイント		9	
10	栄養管理実施加算について		10	
11	絶食患者におけるビタミン非添加末梢静脈栄養時の血中水溶性ビタミン濃度の変化		11	
12	NST のアウトカム評価		12	
13	感染対策としての NST 活動の意義		13	
14	呼吸障害に対する NST 活動とその効果		14	
15	総括、試験		15	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(17)

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)	
講義題目	Infection Control Team Conference		必修/選択	選択
担当教員	榎本武治	担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	1 単位(前期 1)	履修年次	1年・2 年	
テーマと目的	Surgical site infection コントロール全般にわたる最新の EBM の学習。			
講義計画	Surgical site infection コントロールチーム回診カンファレンスと学内外講師による講義。			
達成目標	Surgical site infection コントロール全般の EBM を学習し習熟する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席、総合討論、発表			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席@)		後期(回)	内 容
1	SSI 総論		1	
2	耐性菌対策に向けた周術期抗菌薬使用		2	
3	Surgical site infection (SSI) に対する創縁保護用ドレープの有用性		3	
4	『食道癌切除術症例に対する術前 immunonutrition に関する検討		4	
5	術後感染減少を目指した胃癌手術における材料と手技の工夫		5	
6	術後感染対策としての免疫増強栄養法術前投与の重要性		6	
7	大腸癌手術における創縁保護具(wound retractor)の SSI 予防効果		7	
8	下部消化管穿孔術後の重症感染症の検討		8	
9	尾側脾切除術における予防的抗生剤投与に関する検討		9	
10	『胆道再建術後、肝切除術を試行した症例の SSI に関する検討		10	
11	予防的抗菌薬術前術中投与法による胃癌手術の SSI		11	
12	開心術後に生じた縦隔洞炎の治療と起因菌について		12	
13	肺全摘術後膿胸への対処法		13	
14	SSI 総括		14	
15	試験、評価		15	

講義担当者承認

㊥

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(18)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)		
講義題目	人工心肺、補助循環特論		必修/選択	選択	
担当教員	近田正英	担当教員連絡先	内線 3230		
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	開心術の基本補助手段の人工心肺の原理、実践法を習得する。循環の種々の補助手段を理解する。				
講義計画	人工心肺の基礎から説明し、臨床の実際を解説する。補助循環も詳細に説明する。				
達成目標	人工心肺の原理を理解し、実際の臨床での使用法を習得する。人工心肺のトラブル対応法も理解する。種々の循環の補助手段を習得する。				
教科書・参考書	新 心臓血管外科管理ハンドブック 南江堂				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書等を参考に学習を行う。 1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席㊟)	後期(回)	内 容	(出席㊟)
1	人工心肺法総論(1)		1	常温体外循環法各論(1)	
2	人工心肺法総論(2)		2	常温体外循環法各論(2)	
3	人工心肺法総論(3)		3	常温体外循環法各論(3)	
4	人工心肺法総論(4)		4	常温体外循環法各論(4)	
5	心筋保護法各論(1)		5	低体温循環停止法各論(1)	
6	心筋保護法各論(2)		6	低体温循環停止法各論(2)	
7	心筋保護法各論(3)		7	低体温循環停止法各論(3)	
8	心筋保護法各論(4)		8	低体温循環停止法各論(4)	
9	脳分離体外循環法各論(1)		9	逆行性脳還流法各論(1)	
10	脳分離体外循環法各論(2)		10	逆行性脳還流法各論(2)	
11	IABP 法各論(1)		11	逆行性脳還流法各論(3)	
12	IABP 法各論(2)		12	LVAD 各論(1)	
13	PCPS 各論(1)		13	LVAD 各論(2)	
14	PCPS 各論(2)		14	人工心臓各論(1)	
15	PCPS 各論(3)		15	人工心臓各論(2)	

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(19)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)		
講義題目	呼吸器外科 診断実習			必修/選択	選択
担当教員	丸島秀樹		担当教員連絡先	内線 3336	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)		履修年次	2 年	
テーマと目的	呼吸器疾患診断手技実習として気管支鏡、胸部超音波検査を習得する。				
講義計画	内視鏡専門医による技術指導と実習				
達成目標	内視鏡手技、胸部超音波検査を習得し、呼吸器診断学を学習する。				
教科書・参考書	気管支鏡 第2版 日本呼吸器内視鏡学会編 (医学書院)				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書の指定する範囲をあらかじめ予習し、講義後は自宅で復習する。 1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)	
1	呼吸器の解剖		1	院内感染防止	
2	呼吸器の生理		2	気管支鏡実習(1)	
3	気管支の命名法と肺区域		3	気管支鏡実習(2)	
4	気管支壁の構造		4	気管支鏡実習(3)	
5	気管支鏡検査の目的		5	気管支鏡実習(4)	
6	気道の局所麻酔法		6	気管支鏡実習(5)	
7	気管支観察法		7	気管支鏡実習(6)	
8	気管支壁病変の生検法		8	気管支鏡実習(7)	
9	経気管支肺生検の目的		9	気管支鏡実習(8)	
10	経気管支肺生検の方法		10	胸部超音波実習(1)	
11	経気管支肺生検の合併症		11	胸部超音波実習(2)	
12	超音波気管支鏡の原理		12	胸部超音波実習(3)	
13	超音波気管支鏡の方法		13	胸部超音波実習(4)	
14	気管支鏡検査と炎症		14	胸部超音波実習(5)	
15	気管支鏡検査と腫瘍		15	気管支鏡、超音波実技評価	

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(20)

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)	
講義題目	胎児治療の最前線		必修/選択	選択
担当教員	北川博昭	担当教員連絡先	3222	
単位数	2単位(前期 2)	履修年次	1 年・2年	
テーマと目的	現在おこなわれている胎児治療について学び、外科的な役割について学習する。			
講義計画	胎児治療にもちいられる内視鏡的器材の開発や現在鏡視下手術でもちいられる器具をどのように応用できるかについて学内外講師による講義をおこなう。			
達成目標	胎児治療の歴史的背景を学び今後臨床と研究の接点をみいだす。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	消化管と泌尿器の発生学を学ぶ。特に Moore の人体発生学が良い。 1時間			
成績評価法	出席と最終試験			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	胎児治療の倫理		1	
2	胎児の生理 1		2	
3	胎児の生理 2		3	
4	胎児の診断 1		4	
5	胎児の診断 2		5	
6	内科的胎児治療 1		6	
7	内科的胎児治療 2		7	
8	外科的胎児治療 1		8	
9	外科的胎児治療 2		9	
10	産科的胎児治療 1		10	
11	産科的胎児治療 2		11	
12	胎児治療の現状		12	
13	尿路閉塞の胎児治療		13	
14	脊椎髄膜瘤の胎児治療		14	
15	横隔膜ヘルニアの胎児治療		15	

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(21)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)	
講義題目	乳腺内分泌外科クリニカルラーニング		必修/選択	必修
担当教員	津川浩一郎	担当教員連絡先	内線 3222	
単位数	2単位(3ヶ月・7、8、9月)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患の診療を理解する			
講義計画	種々の基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺症例を通して診断学を理解し、管理方法を検討する。			
達成目標	1. 基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺の診断について、論理的に説明できる 2. 基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺の診断に基づいた治療計画を策定できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	Up To Date(学内からオンラインにて検索可能)を参照 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	乳腺・甲状腺の解剖		1	
2	ホルモンと乳腺の関連		2	
3	乳癌の疫学		3	
4	乳腺・甲状腺疾患の視触診		4	
5	乳腺疾患の画像診断		5	
6	甲状腺・副甲状腺疾患の画像診断		6	
7	転移性乳癌の画像診断		7	
8	乳腺疾患の組織診断		8	
9	甲状腺・副甲状腺疾患の組織診断		9	
10	良性乳腺疾患の外科治療		10	
11	乳癌の外科治療		11	
12	甲状腺・副甲状腺疾患の外科治療		12	
13			13	
14			14	
15			15	

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(22)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)	
講義題目	乳腺内分泌外科手術スキル実習		必修/選択	必修
担当教員	津川浩一郎	担当教員連絡先	内線 3222	
単位数	1単位(3ヶ月・7、8、9月)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患の外科療法を理解する			
講義計画	種々の基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺症例を通して外科療法を理解し、管理方法を検討する。			
達成目標	1. 基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患について、外科療法を論理的に説明できる 2. 基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患の組織診断と外科手技を行うことができる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	Up To Date(学内からオンラインにて検索可能)を参照 1時間			
成績評価法	出席と実習内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	乳腺疾患の穿刺細胞診		1	
2	乳腺疾患の針生検		2	
3	乳腺疾患のマンモトーム生検		3	
4	乳腺疾患の外科生検		4	
5	良性乳腺疾患の手術(1)		5	
6	良性乳腺疾患の手術(2)		6	
7	乳癌の手術-乳房温存術(1)		7	
8	乳癌の手術-乳房温存術(2)		8	
9	乳癌の手術-乳房切除術(1)		9	
10	乳癌の手術-乳房切除術(2)		10	
11	乳癌のリンパ節郭清		11	
12	甲状腺良性腫瘍の手術		12	
13			13	
14			14	
15			15	

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(23)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)	
講義題目	乳癌の診断・治療計画		必修/選択	選択
担当教員	津川浩一郎	担当教員連絡先	内線 3222	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	乳癌の診断と治療方針の選択・決定までを修得する。			
講義計画	乳癌専門医による講義と実習。診断から治療方針の選択・決定までの流れを実際の症例を通して計画・実行する。			
達成目標	乳癌の診断から標準治療計画の立案。			
教科書・参考書	科学的根拠に基づく乳癌診断ガイドライン 1-5 金原出版			
準備学習(予習・復習・時間)	Up To Date(学内からオンラインにて検索可能)を参照 1時間			
成績評価法	出席と発表・討論			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊥)		後期(回)	内 容 (出席㊥)
1	乳癌の画像診断 マンモグラフィ		1	乳癌術式の選択
2	乳癌の画像診断 超音波		2	薬物療法の選択
3	乳癌の画像診断 CT		3	乳癌内分泌療法の選択とレジメン 1
4	乳癌の画像診断 MRI		4	乳癌内分泌療法の選択とレジメン 2
5	乳癌の組織診断 針生検・マンモトーム		5	乳癌化学療法の選択とレジメン 1
6	乳癌の治療計画 1		6	乳癌化学療法の選択とレジメン 2
7	乳癌の治療計画 2		7	乳癌化学療法(分子標的学)の選択とレジメン
8	乳癌の治療計画 3		8	術前化学療法の適応とレジメン
9	乳癌のステージング 1		9	術前内分泌療法の適応とレジメン
10	乳癌のステージング 2		10	術前薬物療法の効果判定 1
11	乳癌のサブタイプ 1		11	術前薬物療法の効果判定 2
12	乳癌のサブタイプ 2		12	術後薬物療法の適応と選択 1
13	乳癌の転移診断 1		13	術後薬物療法の適応と選択 2
14	乳癌の転移診断 2		14	転移乳癌の治療選択 1
15	乳癌の転移診断 3		15	転移乳癌の治療選択 2

講義担当者承認

㊥

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(24)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(外科学)	
講義題目	救急・集中治療における生体防御と Critical Care の実際		必修/選択	選択
担当教員	平 泰彦	担当教員連絡先	内線 3931	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	生体侵襲学について学び、その対処法を実践できるようにする。			
講義計画	座学と実習			
達成目標	生体侵襲の基礎を学び、その対処として臨床実践を可能とする。心肺蘇生法として BLS、ACLS を理解し実践できる。			
教科書・参考書	救急診療指針 へるす出版 集中治療専門医テキスト 日本集中治療医学会			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席と討論・討議			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	侵襲学		1	外傷外科と ACS(acute care surgery)
2	生体反応 (炎症反応)、 生体反応のバランスの崩れ		2	Acute care surgery 総論
3	炎症反応の基本的病態, humoral mediator, cytokine		3	ACS：外傷外科 Trauma surgery
4	心肺蘇生法 BLS, ACLS		4	ACS：救急外科 Emergency surgery
5	外傷総論		5	ACS：外科的集中治療 Surgical critical care
6	外傷初期治療 ATLS		6	damage control surgery
7	腹部外傷、胸部外傷、骨盤・四肢外傷、頭部外傷		7	damage control resuscitation
8	重症病態、ショック		8	non – operative management
9	ショック 各論、治療 血液分布異常性ショック 循環血液量減少性ショック 心原性ショック		9	ACS における消化管・栄養管理
10	重症病態における各種モニタリング		10	ACS における循環・呼吸管理
11	各種臓器機能補助装置 (PCPS, ECMO, CHDF, IABPなど)		11	ACS における内分泌・神経系管理
12	特殊感染症		12	Trauma surgery と General surgery

講義担当者承認 ⑩

【54-6】平成30年度 大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	高度臨床医育成コース(救急医学) (Training course for physicians with professional skills)
研究指導教員	平 泰 彦
研究・教育の概略	医療は疾病や傷害に病むヒトを助け、問題を解決するという実務的行為であり、これを体系的に応用科学として樹立させようというのが医学である。その医療・医学の中でも、「救急医療は“医”の原点である」、に象徴されるように特徴をもった領域である。 教育： 救急医学の柱は、1. ERにおいて総ての救急患者(いわゆる1-3次急患)、内因性疾病および外傷を代表とした外因性傷病者を受け入れ初療にあたる。 2. 救命センター内のICUを含む病棟における、重症患者に対する集中治療、の2つである。 1. の理念から、総ての救急患者の初療にあたるべく、幅広い診察能力と診断能力を要求される。ここで特に強調されるのが、より重症かつ緊急性の高い病態の把握(トリアージ)とそれに対する確実な初療の実施と各専門治療科への転送である。よって広い診察・診断能力と深い医学知識とが要求され、これらを実践に即して講義で理解し、実習で習得する教育を行う。 2. については、近年重症病態、特にショック、DIC、多臓器不全(MOF)に対する病態の理解が大きく進歩した。これに伴い治療方針もまた大きな転換点を迎えているのが現状である。また各種のモニタリング、治療補助手段の進歩も目覚ましいものがある。集中治療の特色は全身にわたる重篤な病態を、局所臓器や系にとらわれることなく総合的に把握し、治療優先順位と決定しこれを実施することである。当分野では上記について教育を行う。 研究： 救急 ER およびプレホスピタルからの診断、治療の充実に図り、脳卒中、急性冠症候群における臨床研究を行っている。 侵襲学の研究。また重症病態、特に各種ショックの病態解析、ALI/ARDS, DIC, 或多臓器不全における病態解析、治療について、臨床また実験系で研究を行っている。主な研究課題を下に記す。
研究項目	1. 薬剤耐菌性菌の疫学研究
準備学習予習・復習	重症病態、ショックの本態が 末梢組織酸素代謝 であることを理解して、臨床に適応することを目指す。 Principles of Critical Care (MC Graw Hill) Evidence-Based Practice of Critical Care (Saunders) などを教科書として学習する。

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(救急医学)	
講義題目	救急医学総論 I		必修/選択	必修
担当教員	平 泰彦	担当教員連絡先	内線 3931	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	救急医療と救急医学について、その本質を理解する			
講義計画	重症度、緊急度の高い急性病態について理解する 急性病態に対する初期対応の意義を理解する			
達成目標	総ての救急患者の急性病態の重症度と緊急度を判断し、トリアージできる 軽症から重症まで急性病態に応じた初期対応の理解とそれを実施できる			
教科書・参考書	救急診療指針（へるす出版）、 標準救急医学(医学書院) Emergency Medicine (Mc Graw Hill)			
準備学習(予習・復習・時間)	救急医学は、病態を目の前にして、緊急度 と 重症度 とを判断する必要がある。主な、頻繁に遭遇する救急病態における、夫々の緊急度と重症度を判断できるように学習する。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での討論において総合的に評価する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席@)		後期(回)	内 容 (出席@)
1	緊急度		1	医療倫理 1
2	バイタルサイン		2	医療倫理 2
3	トリアージ		3	医療倫理 3
4	重症度		4	集中治療総論 1
5	リスク層別化		5	集中治療総論 2
6	高エネルギー損傷		6	集中治療総論 3
7	ABCDE アプローチ		7	呼吸 総論
8	メディカルコントロール		8	呼吸 基礎 呼吸生理
9	プレホスピタルケア		9	呼吸不全
10	口頭指示		10	呼吸 気道確保
11	JPTEC		11	呼吸 酸素療法
12	ウツタイン様式		12	呼吸 人工呼吸
13	外傷データバンク		13	呼吸 急性期リハビリ
14	救急救命士		14	呼吸 呼吸不全、ARDS
15	ドクターヘリ		15	呼吸 処置、対応

講義担当者承認

Ⓜ

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(救急医学)	
講義題目	救急医学総論 II		必修/選択	必修
担当教員	藤谷 茂樹	担当教員連絡先	内線 3931	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	救急医療という実務から生まれた応用科学(実学)である医学を理解する			
講義計画	純粋科学と応用科学との相違を医学と通して理解する 実務である医療に基づく問題解決のための科学的方法である医学を理解する			
達成目標	応用科学としての医学について説明できる 応用科学としての医学的手法を実践できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	科学としての医学、その中の救急医学と実学、実務としての 医療、その中の救急医療がある。医学と医療との差異も理解することが臨床を行うに際して重要であり、これを理解する。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での討論において総合的に評価する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出 席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)	
1	救急医療の標準化	1	Prehospital	
2	スタンダード・ガイドライン	2	トリアージ	
3	AIS コード	3	救外初療 1 (airway)	
4	TRAUMA スコア	4	救外初療 2(循環)	
5	TRISS 法	5	救外初療 3(呼吸)	
6	Clinical Prediction Rule	6	画像診断	
7	GCS	7	血ガス	
8	ACLS	8	酸塩基平衡	
9	JATEC	9	輸血	
10	PALS	10	血管作動薬	
11	DMAT	11	チーム医療 1(リハビリ)	
12	Syndrome Surveillance	12	チーム医療 2(栄養)	
13	Toxidrome	13	チーム医療 3(呼吸リハ)	
14	TEA/IVR	14	救急における倫理	
15	リスクマネジメント	15	終末期医療	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(救急医学)	
講義題目	救急初期診療の診療指針 初期対応 I		必修/選択	必修
担当教員	榊井 良裕		担当教員連絡先	71-8202
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)		履修年次	1 年
テーマと目的	救急初期診療の初期対応について学ぶ			
講義計画	全身観察とトリアージについて理解させる ACLS と JATEC(ATLS) について概説する			
達成目標	救急患者の初療における全身観察と的確なトリアージが実践できる 内因性救急病態に対する ACLS, 外傷に対する JATEC を確実に実践できる			
教科書・参考書	ACLS マニュアル (医学書院)、 外傷初期診療ガイドライン (へるす出版)			
準備学習(予習・復習・時間)	救急医療の初期診療において、不可欠である 1 次救命処置(BLS)と2次救命処置としての、内因性疾患に対する ACLS、外傷に対する ATLS を習得する。上記教科書で、救急初期診療を理解し、実施できるようにする。 1時間			
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	BLS、一次、二次サーベイの理解		1	評価法の理解
2	質の高い CPR が行える		2	致死的な外傷を理解する
3	安全で有効な電気ショックが出来る		3	頸椎保護、全脊柱固定の重要性の理解
4	VF /pulseless VT アルゴリズム理解		4	外科的気道確保・各種穿刺法の理解
5	PEA / Asystole アルゴリズム理解		5	外科的気道確保の実践
6	徐脈アルゴリズムの理解		6	胸腔・腹腔ドレーン挿入の実践
7	頻脈のアルゴリズムの理解		7	心嚢穿刺の実践
8	心拍再開後ケアの理解		8	超音波、XP,CT 画像の理解
9	脳卒中の初期治療の理解		9	超音波、XP,CT 画像読影(頭頸部)
10	ACS の初期治療の理解		10	超音波、XP,CT 画像読影(胸腹部・骨盤)
11	アルゴリズムを統合して実践 (1)		11	超音波、XP,CT 画像読影(四肢)
12	アルゴリズムを統合して実践 (2)		12	IVR の適応を理解する
13	気道挿管手技		13	全脊柱固定、骨盤動揺防止実践
14	骨髄穿刺手技		14	止血法実践
15	死への対応		15	外傷シナリオ実習

講義担当者承認

㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(救急医学)	
講義題目	救急初期診療の診療指針 診察		必修/選択	必修
担当教員	吉田 徹	担当教員連絡先	71-8165	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	救急患者の初療における理学所見のとり方を学ぶ			
講義計画	身体所見のとり方とその意義について学ぶ			
達成目標	頭部から下肢まで全身の診察(視診、聴診、触診、打診)ができる 全身の診察により得られた所見の意義を説明できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	身体所見をとることは救急領域だけでなく、医療の出発点である。これら一般に共通する身体所見の取り方と基礎として、救急領域における特殊性も理解する。 1時間			
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	胸部(心臓)		1	局面に応じた身体所見・内因性疾患 1
2	胸部(肺)		2	局面に応じた身体所見・内因性疾患 2
3	腹部(触診)		3	局面に応じた身体所見・外傷
4	直腸診		4	局面に応じた身体所見・重症外傷
5	骨盤		5	局面に応じた身体所見・BLS
6	上肢		6	局面に応じた身体所見・ACLS1
7	下肢		7	局面に応じた身体所見・ACLS2
8	神経(脳神経)		8	局面に応じた身体所見・病院前活動 1
9	神経(小脳)		9	局面に応じた身体所見・病院前活動 2
10	神経(運動系)		10	局面に応じた身体所見・災害・トリアージ
11	神経(知覚系)		11	局面に応じた身体所見・中毒 1
12	皮膚		12	局面に応じた身体所見・中毒 2
13	高次脳機能		13	局面に応じた身体所見・環境障害 1
14	リンパ節		14	局面に応じた身体所見・環境障害 2
15	耳、鼻、眼		15	局面に応じた身体所見・特殊疾患

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(救急医学)	
講義題目	救急初期診療の診療指針 検査		必修/選択	必修
担当教員	榊井 良裕	担当教員連絡先	71-8202	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	救急初療における必要な検査とその意義について学ぶ			
講義計画	救急患者の各種病態に応じた最低限必要される検査について講義する 実施された検査結果の意義について			
達成目標	さまざまな主訴で来院する救急患者について、必要な検査を指示、実施できる 実施した検査結果について判断し、病態理解の一助とし得る			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	救急初期診療における検査について、理解し実施することが目的である。救急では緊急性と重症度の観点から、検査は必要最低限、かつ必須検査を落としてはならない。これを理解する。 1時間			
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席 ⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)	
1	血液検査の理解(血算、血沈)	1	心エコーの実践	
2	血液検査の理解(生化学)	2	腹部エコーの実践	
3	血液検査の理解(凝固線溶系)	3	体表面エコーの実践	
4	血液検査の理解(内分泌など)	4	髄液検査の実践	
5	血液検査の理解(血液ガス)	5	胸腔・腹腔穿刺の実践	
6	細菌検査の理解	6	CT の読影(頭頸部)	
7	グラム染色実習	7	CT の読影(腹部・骨盤)	
8	心電図検査の理解	8	CT の読影(四肢)	
9	心電図読影(虚血性心疾患)	9	MR の読影(頭頸部)	
10	心電図読影(不整脈)	10	MR の読影(腹部・骨盤)	
11	エコー図法の理解	11	MR の読影(脊椎・四肢)	
12	CT 検査の理解	12	臨床推論(講義)	
13	MR 検査の理解	13	シナリオ実習(1)	
14	シンチグラム検査の理解	14	シナリオ実習(2)	
15	髄液・胸腹水検査の理解	15	シナリオ実習(3)	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(救急医学)	
講義題目	救急初療 症候学 I		必修/選択	必修
担当教員	藤谷 茂樹	担当教員連絡先	内線 3931	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	救急領域でよく遭遇する症候について学ぶ			
講義計画	下記に示した各症候について講義する			
達成目標	各症候の認識の仕方、その診断学的意義を理解する 各症候に応じた診断学的プロセスと判断、そして治療が実施できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	救急外来 ER でよく遭遇する症候に対して、鑑別診断をあげ、診断にいたる身体所見や必要な検査について学ぶ。 救急診療指針 (るす出版)、内科診断学などを参考図書とする。 1時間			
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (㊟)	(出席	後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	ショック 1		1	胸痛・動悸 2
2	ショック 2		2	要背部痛 1
3	意識障害 1		3	要背部痛 2
4	意識障害 2		4	喀血 1
5	失神 1		5	喀血 2
6	失神 2		6	吐下血 1
7	めまい 1		7	吐下血 2
8	めまい 2		8	腹痛・嘔吐下痢 1
9	頭痛 1		9	腹痛・嘔吐下痢 2
10	頭痛 2		10	黄疸・出血傾向 1
11	痙攣 1		11	黄疸・出血傾向 2
12	痙攣 2		12	運動麻痺 1
13	呼吸困難 1		13	運動麻痺 2
14	呼吸困難 2		14	精神症状 1
15	胸痛・動悸 1		15	精神症状 2

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(救急医学)	
講義題目	侵襲学		必修/選択	選択
担当教員	平 泰彦	担当教員連絡先	内線 3931	
単位数	2単位(前期1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	生体への侵襲について学ぶ			
講義計画	生体の内部環境を乱し障害を来たす侵襲について講義する 生体の内部・外部からの侵襲に対する反応が生体反応であり主として炎症反応である			
達成目標	侵襲について説明できる 生体反応について説明できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	生体の恒常性を乱そうと作用するのが侵襲(生体侵襲)である。生体は侵襲に対し生体反応をおこす。代表的な反応が炎症反応であり、その作用として humoral mediator (cytokine) が重要である。このメカニズムを理解する。 集中治療医学 (秀潤社)などを参考とする。 1時間			
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)	
1	侵襲とは 1	1	循環 総論	
2	侵襲とは 2	2	循環 急性心不全	
3	侵襲の評価 (外傷、ショック、熱傷)	3	循環 慢性心不全	
4	侵襲の評価 (術後侵襲の評価法)	4	ACS	
5	侵襲に対する生体反応(神経内分泌)	5	STEMI	
6	侵襲に対する生体反応(サイトカイン)	6	NSTE-A	
7	侵襲に対する生体反応(エネルギー代謝)	7	たこつぼ型心筋症	
8	侵襲と過剰生体反応に対する治療 1	8	感染性心内膜炎	
9	侵襲と過剰生体反応に対する治療 2	9	大血管疾患 1	
10	侵襲と SIRS	10	大血管疾患 2	
11	侵襲と臓器不全	11	不整脈 1	
12	SIRS, CARS	12	不整脈 2	
13	侵襲と多臓器不全	13	不整脈 3	
14	臓器不全の治療 1	14	循環器系疾患 薬物療法、DC	
15	臓器不全の治療 2	15	循環器 補助循環装置	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(救急医学)		
講義題目	集中治療医学 総論		必修/選択	必修	
担当教員	吉田 徹	担当教員連絡先	71-8165		
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年 (2 年でも可)		
テーマと目的	集中治療学の意義と特徴について学ぶ				
講義計画	主要な臓器や系の急性機能不全を総合的・集中的に治療する医学体系を学ぶ 個々の臓器・系の機能不全について学ぶ				
達成目標	個々の臓器・系の機能不全を認識し、横断的・総合的な理解ができる 疾患別・臓器別にとらわれない横断的・総合的な病態の把握と治療ができる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	臓器不全、多臓器不全について学ぶ。 集中治療医学などを参照。 1時間				
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容 (出席⑩)	
1	各臓器機能と多臓器不全(神経系)		1	集中治療 7(消化器系 1)	
2	各臓器機能と多臓器不全(呼吸器系)		2	集中治療 8(消化器系 2)	
3	各臓器機能と多臓器不全(循環系)		3	集中治療 9(代謝系)	
4	各臓器機能と多臓器不全(消化器系)		4	集中治療 10(内分泌系)	
5	各臓器機能と多臓器不全(代謝系)		5	集中治療 11(血液系)	
6	各臓器機能と多臓器不全(内分泌系)		6	集中治療 12(免疫系)	
7	各臓器機能と多臓器不全(血液系)		7	集中治療 13(腎泌尿器系)	
8	各臓器機能と多臓器不全(免疫系)		8	多臓器不全の病態・治療 1(ショック 1)	
9	各臓器機能と多臓器不全(腎泌尿器系)		9	多臓器不全の病態・治療 2(ショック 2)	
10	集中治療 1(神経系)		10	多臓器不全の病態・治療 3(ショック 3)	
11	集中治療 2(呼吸器系 1)		11	多臓器不全の病態・治療 4(ショック 4)	
12	集中治療 3(呼吸器系 2)		12	多臓器不全の病態・治療 5(敗血症)	
13	集中治療 4(循環系 1)		13	多臓器不全に至る傷病(内因性疾患)	
14	集中治療 5(循環系 2)		14	多臓器不全に至る傷病(外因性疾患)	
15	集中治療 6(循環系 3)		15	DIC	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(救急医学)	
講義題目	集中治療医学 モニタリング		必修/選択	必修
担当教員	平 泰彦	担当教員連絡先	内線 3931	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1年 (2年も可)	
テーマと目的	集中治療に必須のモニタリング			
講義計画	集中治療に必須の各種のモニタリングの適応と実際について学ぶ			
達成目標	集中治療に必須の各種のモニタリングを設定し、データを理解できる モニタリングから得たデータを総合的に判断し、治療に適応できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	強い侵襲に暴露され、強い生体侵襲下にある重症患者の生体モニターについて基礎、臨床応用を学び、治療に結びつける。集中治療医学 Principle of Critical Care 1 時間			
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	中枢神経系 非侵襲的モニタリング		1	中枢神経系疾患 (CNS) 総論
2	中枢神経系 侵襲的モニタリング		2	意識障害
3	呼吸器系 パルスオキシメーター		3	CNS モニタリング
4	呼吸器系 カプノグラフィ		4	CNS 脳血管障害 1
5	呼吸器系 呼吸仕事量		5	CNS 脳血管障害 2
6	呼吸器系 連続ABG測定		6	CNS 脳血管障害 3
7	循環系 ECG		7	CNS 脳血管障害 4
8	循環系 観血的動脈圧モニター		8	CNS 脳浮腫
9	循環系 中心静脈圧		9	てんかん
10	循環系 (Swan-Ganz Catheter) 1		10	せん妄
11	循環系 (Swan-Ganz Catheter) 2		11	鎮静・鎮痛
12	循環系 ScvO2 と SvO2		12	腎臓 総論
13	経胸壁超音波		13	腎臓 基礎・生理
14	経食道超音波		14	腎臓 AKI
15	肺経由動脈熱希釈法(TPTD 法)		15	腎臓 CKD

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(救急医学)	
講義題目	集中治療医学 人工補助療法		必修/選択	選択
担当教員	藤谷 茂樹	担当教員連絡先	内線 3931	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	集中治療で必須の人工的補助療法を理解する			
講義計画	ICU 領域で頻繁に使用される人工補助療法の適応対象と適応判断を学ぶ			
達成目標	ICU の重症患者治療に実施される人工補助療法とその適応を理解する 人工補助療法を実施できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	現代の重症病態治療において、科学の発達により、生体の防御機構や生体維持のための機能を一時的に代行する医療機器が開発されている。これらの理論的基礎と臨床応用を学ぶ。救急診療指針。集中治療医学。 1時間			
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席 ⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)	
1	人工呼吸器 1(初期設定)	1	血液浄化療法 3	
2	人工呼吸器 2(低コンプライアンス)	2	血液浄化療法 4	
3	人工呼吸器 3(気道抵抗上昇)	3	静脈栄養 1	
4	人工呼吸器 4(経肺圧)	4	静脈栄養 2	
5	人工呼吸器 5(weaning)	5	経腸栄養 1	
6	PCPS 1(経皮的心肺補助装置)	6	経腸栄養 2	
7	PCPS 2(V-A ECMO)	7	一次的ペースメーカー	
8	ECLA 1(体外式肺補助)	8	ペースメーカー管理 1	
9	ECLA 2(V-V)	9	ペースメーカー管理 2	
10	LVAD 1(補助人工心臓)	10	ICP 1	
11	LVAD 2(補助人工心臓)	11	ICP 2	
12	IABP 1	12	EEG 1	
13	IABP 2	13	EEG 2	
14	血液浄化療法 1	14	腹腔内圧測定	
15	血液浄化療法 2	15	TPTD	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(救急医学)	
講義題目	周術期管理		必修/選択	選択
担当教員	藤谷 茂樹	担当教員連絡先	内線 3931	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	各外科系手術の周術期管理について			
講義計画	各外科系周術期の特徴を理解させる 周術期管理の実際を理解する			
達成目標	各外科系周術期患者の状態を把握する 周術期患者の状態把握に基づいた管理や治療を実施できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	生体にとって生存のための必要な手術治療も、一方では生体に対する大きな侵襲である。集中治療では手術後の生体維持のための管理も学ぶ。集中治療医学。 1時間			
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席 ⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)	
1	脳外科周術期管理	1	肝胆膵周術期管理 3	
2	脳外科周術期管理 2	2	産婦人科周術期管理 1	
3	呼吸器外科周術期管理 1	3	産婦人科周術期管理 2	
4	呼吸器外科周術期管理 2	4	小児外科周術期管理	
5	心臓外科周術期管理 1	5	移植患者の周術期管理 1	
6	心臓外科周術期管理 2	6	移植患者の周術期管理 2	
7	心臓外科周術期管理 3	7	免疫抑制患者の周術期管理 1	
8	血管外科周術期管理 1	8	免疫抑制患者の周術期管理 2	
9	血管外科周術期管理 2	9	熱傷	
10	血管外科周術期管理 3	10	疼痛管理	
11	消化管周術期管理 1	11	輸血	
12	消化管周術期管理 2	12	リハビリ	
13	消化管周術期管理 3	13	栄養	
14	肝胆膵周術期管理 1	14	PICS	
15	肝胆膵周術期管理 2	15	感染	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(救急医学)	
講義題目	末梢組織酸素代謝（血中・組織乳酸）		必修/選択	選択
担当教員	平 泰彦	担当教員連絡先	内線 3931	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	ショックの本態である組織酸素代謝異常について理解する			
講義計画	ショックの病態の理解 ショックの本態である末梢組織酸素代謝を理解する			
達成目標	生体にとり生命維持のための組織酸素代謝について説明できる ショックに代表される重症病態における組織酸素代謝異常の機序を説明できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	ショックの本態である、末梢組織酸素代謝異常について学ぶ。あらゆる重症病態において酸素代謝異常は最終的な致死の状態をまねく。その理論と、それに対する治療とを学ぶ。 1時間			
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	ショック-血液低下		1	腎臓 UTI 尿路感染症
2	ショック-末梢組織血液かん流不全		2	腎臓 HUS
3	ショック-末梢組織酸素代謝異常		3	腎臓 腎機能低下時の薬剤投与
4	Macrocirculation		4	肝臓 総論
5	Microcirculation		5	肝臓 生理・病態
6	ショックにおける Microcirculation の重要性		6	肝臓 急性肝不全、劇症肝炎
7	Microcirculation と多臓器不全(MOF)		7	肝臓 肝硬変
8	組織酸素代謝に関わる因子1		8	肝臓 肝移植
9	組織酸素代謝に関わる因子2		9	脾臓 総論
10	組織酸素代謝異常の指標		10	脾臓 生理・病態
11	乳酸、ピルビン酸		11	重症脾炎
12	血液中乳酸値と組織中乳酸値		12	脾臓 脾移植
13	Microdialysis 法		13	消化管一般 総論
14	ショック状態における末梢組織酸素代謝異常		14	消化管 出血・穿孔・イレウス
15	Septic shock における末梢組織酸素代謝異常		15	Abdominal Compartment Syndrome

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(救急医学)	
講義題目	夜間急患センターにおける研修(実習)		必修/選択	必修
担当教員	藤谷 茂樹	担当教員連絡先	内線 3931	
単位数	1 単位(前期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	軽症、中等症患者の実態とその治療			
講義計画	軽症、中等症患者と重症患者のトリアージ 軽症、中等症疾患の概略と治療			
達成目標	軽度の主訴から重症で、緊急度を要する疾患を選別できる 軽症、中等症疾患への治療が適切に行い得る			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	救急外来においては、これまで述べた重篤、重症の病態だけに対処するのではない。 より重症度、緊急度の軽い病態に対しても対応する。これらについて学ぶ。 1時間			
成績評価法	夜間急患センターでの実習成績を評価する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	トリアージナース		1	
2	暴力対応		2	
3	Disposition		3	
4	ハイリスク患者		4	
5	キラードイジーズ		5	
6	救急画像(単純 X 線)		6	
7	救急画像(頭部 CT)		7	
8	救急画像(us)		8	
9	緊急検査(血算)		9	
10	緊急検査(生化学)		10	
11	SIRS		11	
12	コミュニケーションスキル(1)		12	
13	コミュニケーションスキル(2)		13	
14	観察ユニット		14	
15	帰宅説明書		15	

講義担当者承認

◎印

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(救急医学)	
講義題目	救急初療 症候学 II		必修 / 選択	必修
担当教員	藤谷 茂樹	担当教員連絡先	内線 3931	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	救急領域でよく遭遇する症候について学ぶ			
講義計画	下記に示した各症候について講義する			
達成目標	各症候の認識の仕方、その診断学的意義を理解する 各症候に応じた診断学的プロセスと判断、そして治療が実施できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	救急外来 ER で良く遭遇する (common) な症候に対する、診断プロセスと対応について学ぶ。 1時間			
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	ショック 1		1	黄疸 2
2	ショック 2		2	乏尿、尿閉 1
3	不整脈 1		3	乏尿、尿閉 2
4	不整脈 2		4	頻尿、血尿 1
5	悪心、嘔吐 1		5	頻尿、血尿 2
6	悪心、嘔吐 2		6	脱水 1
7	吃逆 1		7	脱水 2
8	吃逆 2		8	浮腫 1
9	腹痛 1		9	浮腫 2
10	腹痛 2		10	発疹 1
11	吐血 1		11	発疹 2
12	吐血 2		12	出血傾向 1
13	下痢、便秘 1		13	腰痛
14	下痢、便秘 2		14	関節痛
15	黄疸 1		15	鼻出血

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(15)

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース(救急医学)		
講義題目	救急初期診療の診療指針 初期対応Ⅱ			必修/選択	必修
担当教員	平 泰彦		担当教員連絡先	内線 3931	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)		履修年次	2 年	
テーマと目的	救急初期診療の初期対応について学ぶ				
講義計画	全身観察とトリアージについて理解させる ACLS と JATEC(ATLS) について概説する				
達成目標	救急患者の初療における全身観察と的確なトリアージが実践できる 内因性救急病態に対する ACLS, 外傷に対する JATEC を確実に実践できる				
教科書・参考書	ACLS マニュアル (医学書院)、 外傷初期診療ガイドライン (へるす出版)				
準備学習(予習・復習・時間)	救急初期診療における実際を理論的根拠の基に実施する事を学ぶ。 1時間				
成績評価法	出席と講義中の討論内容から総合的に評価する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	生理学的アプローチ		1	血液凝固系 総論	
2	PTD		2	血液凝固系 生理・病態	
3	三相性死亡		3	血液凝固系 DIC	
4	解剖学的アプローチ		4	血液凝固系 PE、DVT	
5	超致死的胸部損傷		5	代謝・内分泌 総論	
6	致死的胸部損傷		6	糖代謝異常 DM	
7	AMPLE/FIXES		7	DM 各論 1	
8	6H5T		8	DM 合併症	
9	Vf/Pulseless VT		9	甲状腺・副甲状腺 1	
10	PEA		10	甲状腺・副甲状腺 2	
11	Asystole		11	熱傷	
12	ハイムリック法		12	急性中毒	
13	緊急輸血		13	環境異常による障害	
14	TCP		14	体温異常	
15	Difficult Airway		15	特殊病態 小児、妊婦 など	

講義担当者承認

◎印